宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第 79 集

多気城跡 II
岡本城跡

平成 25 年3月

宇都宮市教育委員会

序

多気城跡と岡本城跡は、宇都宮の中世を考える上で貴重な城跡です。

多気城跡は多気山全体を城塞化し、戦国末期に宇都宮氏が本拠とした関東屈指の山城です。また、岡本城跡は、宇都宮氏の北の守りとして岡本富高によって築かれたと伝わる平山城です。何れも宇都宮氏と関わりの深い城跡です。

この２つの城跡は、これまで考古学的な調査があまり行われておらず、不明な部分も多いことから、城跡の範囲や内容を把握することを目的とし平成21年度から23年度にかけて発掘調査を実施しました。

その結果、多気城跡については、主郭と考えられる「御殿平」の南側を防御するための竪堀や腰曲輪の状況が確認され、岡本城跡については、15～16世紀にかけての堀跡が発見され、城が長期間にわたり使用されていたことがわかりました。

本報告書はその調査成果をまとめたものであり、宇都宮市の中世の歴史を解明する上で、その一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本調査及び報告書の作成にあたり、ご尽力・ご協力を賜りました地権者並びに地域の皆様方、及び栃木県教育委員会等の関係諸機関の方々には厚く御礼申し上げます。

平成25年3月29日

宇都宮市教育委員会
教育長　水越　久夫

多気城跡遠景

岡本城跡全景

例　　言

1　本報告書は、栃木県宇都宮市田野町に所在する多気城跡及び同市中岡本町に所在する岡本城跡に関する発掘調査報告書である。

2　多気城跡及び岡本城跡の調査は、遺跡の範囲及び内容等の確認に伴う調査で、多気城跡は平成21年度、岡本城跡は平成21年度～平成23年度にかけて国庫補助事業として実施したものである。

3　調査期間は次のとおりである。

多気城跡　　平成22年1月12日～平成22年3月12日

岡本城跡

第Ⅰ次調査　平成21年7月1日～平成21年8月31日

第Ⅱ次調査　平成22年8月2日～平成22年10月12日

第Ⅲ次調査　平成23年11月15日～平成23年12月14日

4　調査面積は次のとおりである。

多気城跡　5,000㎡

岡本城跡

第Ⅰ次調査　約200㎡　第Ⅱ次調査　約200㎡　第Ⅲ次調査　約100㎡

5　多気城跡の発掘調査での測量、写真撮影等は今平利幸が、岡本城跡の発掘調査での測量、写真撮影等は近藤真・今平利幸がこれにあたった。

6　遺構・遺物の整理、実測等は、齊藤しのぶ、中山真理、村上啓子、鈴木千佳子の協力を得て、今平利幸がこれにあたった。また、遺物の写真撮影は、今平利幸、齊藤しのぶ、中山真理がこれにあたった。

7　本書の執筆は第Ⅱ章1を近藤が、それ以外を今平がこれにあたった。

8　出土した遺物及び調査図面・写真は、宇都宮市教育委員会で保管している。

9　発掘調査の関係者は次のとおりである。

［調査主体］

（多気城跡・岡本城跡第Ⅰ次調査）

〔指導助言〕

宇都宮市文化財保護審議委員会委員　塙　静夫

〃　橋本澄朗

宇都宮市教育委員会　教育長　伊藤文雄

教育次長　岡本典幸

調査担当　文化課長　森山和夫

文化課長補佐　栃木邦夫

文化財保護係長　大塚雅之

文化財保護係　神野安伸・君島直人・今平利幸・須田浩太郎・前原義之・井上俊邦・黒須寛・柴正美・筧芳子

（岡本城跡第Ⅱ次調査）

〔指導助言〕

宇都宮市文化財保護審議委員会委員　竹澤　謙

〃　橋本澄朗

宇都宮市教育委員会　教育長　伊藤文雄
　　教育次長　岡本典幸
調査担当　文化課長　高橋充史
　　文化課長補佐　阿部紀夫
　　文化財保護係長　大塚雅之
　　文化財保護係　江川尚美・神野安伸・君島直人・今平利幸・
　　前原義之・阿部雅子・近藤真・柴正美・降幡敏彦

（岡本城跡第Ⅲ次調査）
［指導助言］
宇都宮市文化財保護審議委員会委員　竹澤　謙
　　〃　橋本澄朗
宇都宮市教育委員会　教育長　伊藤文雄
　　教育次長　手塚敏男
調査担当　文化課長　高橋充史
　　文化課長補佐　伊藤泰拓
　　文化財保護係長　大塚雅之
　　文化財保護係　石川和弘・今平利幸・君島直人・前原義之
　　・阿部雅子・近藤真・柴正美・降幡敏彦

［調査補助員］　入江つや子・入江タカ子・入江通子・鈴木智子・枝明弘・若林政弘・広田とく・鈴木正男・市村康子・福島千代子・星野徳夫・五月女芳・阿相忠也・小森行男・江連恵子・住谷昭・村上アイ

10　発掘調査の実施並びに本書の作成にあたっては、栃木県教育委員会の指導を受けるとともに次の諸機関及び諸氏のご指導を賜った。記して感謝を表したい。（順不同、敬称略）
（財）とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター、田熊清彦、齋藤恒夫、武川夏樹、荒川喜夫、斎藤弘、関口和也、玉生勝経、君島京子、小森文夫、小森常市、枝孝一、小森薫、近江利男、落合克昌、市川正

凡　　例

1．挿図の縮尺は、遺構が原則1/80もしくは1/100とし、遺物は1/3もしくは1/4で示した。また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び図版の遺物番号と一致する。
2．断面図基準線は標高であり、平面図の方位は真北を示す。
3．遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
　ローム粒…LR　ロームブロック…LB　今市パミス…IP　七本桜パミス…SP　鹿沼パミス…KP　炭化物…C
4．遺構においては次の略号を使用した。
　溝…SD　土坑…SK　不明…SX
5．土層断面図において■は黒色地山、■はSP層、□はIP層、▤はローム層、▥はKP層、▦は粘土層、▨は砂・礫層を示す。

目　　次

序・例言・凡例・目次・挿図目次・表目次・図版目次

第Ⅰ章　多気城跡

1　はじめに

（1）　調査の経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

（2）　遺跡の環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2　調査概要

（1）　遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

（2）　遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

3　おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

第Ⅱ章　岡本城跡

1　はじめに

（1）　調査の経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

（2）　遺跡の環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

2　調査概要

（1）　遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

（2）　遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

3　おわりに

（1）　確認調査成果について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

（2）　発掘調査から見た岡本城 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

挿　図　目　次

第１図 多気城跡全体図 …… 2
第２図 調査区全体図 …… 3
第３図 周辺城跡分布図 …… 7
第４図 竪堀・曲輪ｂ・曲輪ｃ平面図 … 9
第５図 断面図（１） …… 10
第６図 曲輪ｄ・曲輪ｅ平面図 …… 11
第７図 曲輪ｆ・曲輪ｇ平面図 …… 12
第８図 断面図（２） …… 13
第９図 出土遺物実測図 …… 14
第10図 多気城跡調査区部分竪堀及び腰曲輪想定図 … 16
第11図 調査区全体図 …… 18
第12図 周辺遺跡分布図 …… 23
第13図 Ｔ－１平・断面図 …… 29
第14図 Ｔ－２平・断面図 …… 30
第15図 Ｔ－３平・断面図 …… 31
第16図 Ｔ－４平・断面図 …… 31
第17図 Ｔ－５平・断面図 …… 32
第18図 Ｔ－６平・断面図 …… 33
第19図 Ｔ－７平・断面図 …… 33
第20図 Ｔ－10平・断面図 …… 34
第21図 Ｔ－11平・断面図 …… 35
第22図 Ｔ－12平・断面図 …… 36
第23図 Ｔ－13平・断面図 …… 37
第24図 Ｔ－14平・断面図 …… 38
第25図 Ｔ－15・16平・断面図 …… 39
第26図 Ｔ－17・18平・断面図 …… 40
第27図 Ｔ－19平・断面図 …… 41
第28図 Ｔ－20平・断面図 …… 42
第29図 Ｔ－24平・断面図 …… 42
第30図 Ｔ－21～23平・断面図 …… 43
第31図 出土遺物実測図（１） …… 44
第32図 出土遺物実測図（２） …… 45
第33図 出土遺物実測図（３） …… 46
第34図 出土遺物実測図（４） …… 48
第35図 岡本氏・玉生氏略系図 …… 50
第36図 岡本城跡周辺の小字図 …… 50
第37図 岡本城跡調査区部分復元想定図 … 51

表　目　次

第１表 周辺城跡一覧表 …… 6
第２表 出土遺物観察表 …… 14
第３表 周辺遺跡一覧表 …… 22
第４表 出土遺物観察表（１）…… 47
第５表 出土遺物観察表（２）…… 48

図　版　目　次

PL１ ①竪堀状況(南から) ②Ｔ－１確認状況(東から) ③Ｔ－１断面確認状況(南東から) ④Ｔ－１確認状況(北西から) ⑤Ｔ－２確認状況(東から) ⑥Ｔ－２断面確認状況(南東から) ⑦曲輪ｆ断面確認状況(東から) ⑧曲輪ｆ断面確認状況(南から)

PL２ ①曲輪ｂ全景(西から) ②曲輪ｂ全景(東から) ③曲輪ｂ平坦部確認状況 ④曲輪ｂ断面確認状況(東から) ⑤曲輪ｂ断面確認状況(南東から) ⑥腰曲輪遠景(北から) ⑦調査区全景(南から)

PL３ ①Ｔ－１調査前(西から) ②Ｔ－２調査前(北から) ③Ｔ－３調査前(西から) ④Ｔ－３堀確認状況 ⑤Ｔ－２堀確認状況 ⑥Ｔ－４堀確認状況 ⑦Ｔ－５南側堀確認状況 ⑧Ｔ－５北側堀確認状況

PL４ ①Ｔ－６堀確認状況 ②Ｔ－７堀確認状況 ③Ｔ－10石積遺構確認状況(北から) ④Ｔ－10石積遺構確認状況アップ(北東から) ⑤Ｔ－10溝確認状況(東から) ⑥Ｔ－10溝確認状況(西から) ⑦岡本城跡遠景(南上空から) ⑧遠景写真(南から)

PL５ ①多気城跡出土かわらけ ②多気城跡出土砥石 ③岡本城跡出土かわらけ

PL６ ①岡本城跡出土内耳土器 ②岡本城跡出土陶磁器(1) ③岡本城跡出土陶磁器(2) ④岡本城跡出土陶磁器(3) ⑤岡本城跡出土茶臼(1) ⑥岡本城跡出土茶臼(2)

PL７ ①岡本城跡出土砥石 ②岡本城跡出土刀子 ③岡本城跡出土鉄鏃 ④岡本城跡出土紡錘車 ⑤岡本城跡出土鉄製品(1) ⑥岡本城跡出土鉄製品(2) ⑦岡本城跡出土鉄滓 ⑧岡本城跡出土縄文土器 ⑨岡本城跡出土内耳土器

第Ⅰ章 多気城跡

1 はじめに

（1）調査の経過

多気城跡は戦国時代末期に宇都宮氏の居城として使われた城である。総面積が約150haに及ぶ広大な山城で、中腹には宇都宮市指定不動明王坐像を本尊とする多気山持宝院不動寺が所在する。

山のほとんどが雑木林もしくはスギ・ヒノキで構成されている。近年、植林した木の間伐作業用の運搬車及び間伐機械の大型化に伴い、その搬入道路の開削が必要となるケースが増えている。今回の調査区内も、以前作道が行われ、曲輪の一部が削られている状況であったことから、その状況把握と文化財保護の観点から平成21年度に国庫補助を導入し調査を実施した。

なお、平成3年度には、林道建設に先立ち、多気城跡の東側の守りと考えられる張り出した大規模な曲輪付近の調査が行われたほか、翌年度には、民間開発に伴い、多気城跡の外郭線と思われる堀・土塁が確認された割田遺跡の調査が行われている。

今回の調査区は第1図の曲輪Ⅲの南斜面上の竪堀とその東側の腰曲輪がみられる約5,000㎡を対象に行った。第2図はその部分を拡大したものであるが、以前間伐材の運び出しの際に道が斜面上に造られ、曲輪が部分的に壊されている状況を確認した。

【調査日誌抄】

1月12日　多気山駐車場にプレハブ設置。現地の下草刈り等を実施。

1月15日　竪堀部分の下草刈り。竪堀の南端にT－1を設定し掘り下げ。

1月19日　竪堀部分北側の下草刈り。

1月20日～22日　曲輪下草刈り。

1月26日　基準杭の設置。T－1土塁セクション清掃後写真撮影、セクション図作成。

1月27日　T－2を設定し、掘り下げ。

1月29日　竪堀周辺平面図作成。T－2掘り下げ。

2月4日　竪堀周辺の平面図・コンター図作成。

2月5日・8日　切通し部分の清掃後、セクション図作成。

2月9日・10日　曲輪b平面図作成。

2月15日～19日　切通し部分の清掃後、セクション図作成。

2月22日～26日　T－1堀部分の掘り下げ。

3月1日　T－1拡張部セクション図作成。

3月2日・3日　曲輪g平面図及びコンター図作成。

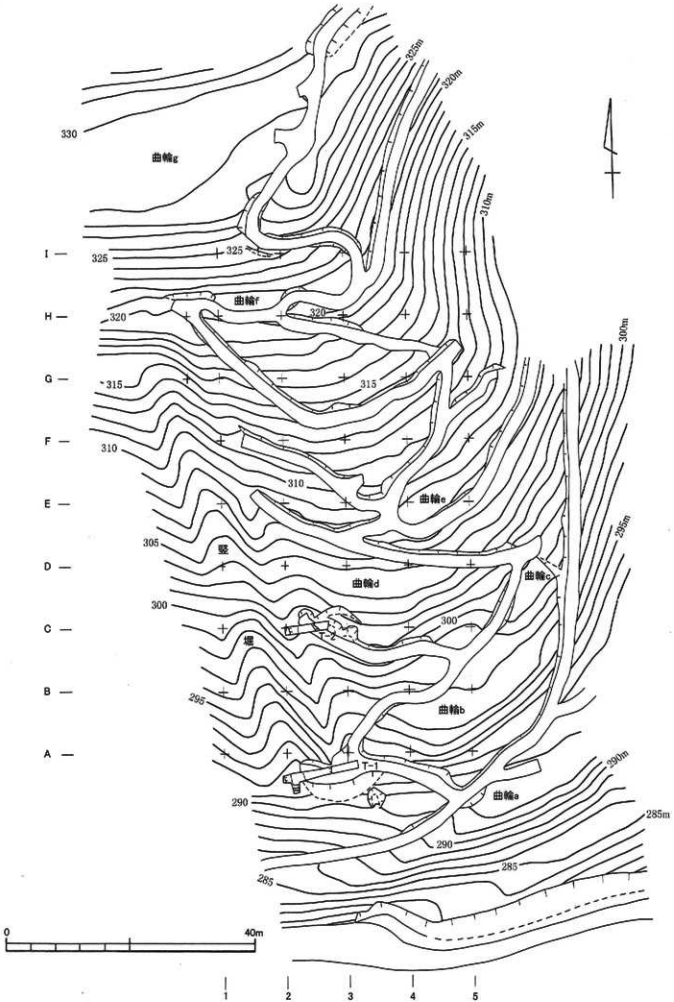
3月4日　曲輪d・eの平面図作成。

3月5日　T－1埋め戻し。

3月12日　プレハブ・トイレ等の撤去。

（2）遺跡の環境

市道1876号線（下野谷の道）
林道西多賀線
市道1445号線
特定施設
調査区
林道南多賀線
VI
VII
VIII
IX
X
XI
XII
XIII
XIV
XV
XVI
XVII
XVIII
XIX
XX
XXI
XXII
XXIII
XXIV
XXV
XXVI
XXVII
XXVIII
XXIX
XXX
XXXI
XXXII
XXXIII
XXXIV
XXXV
XXXVI
XXXVII
XXXVIII
XXXIX
XXXX
XXXXI
XXXXII
XXXXIII
XXXXIV
XXXXV
XXXXVI
XXXXVII
XXXXVIII
XXXXIX
XXXXX
XXXXXI
XXXXXII
XXXXXIII
XXXXXIV
XXXXXV
XXXXXVI
XXXXXVII
XXXXXVIII
XXXXXIX
XXXXXX
XXXXXXI
XXXXXXII
XXXXXXIII
XXXXXXIV
XXXXXXV
XXXXXXVI
XXXXXXVII
XXXXXXVIII
XXXXXXIX
XXXXXXX
XXXXXXXI
XXXXXXXII
XXXXXXXIII
XXXXXXXIV
XXXXXXXV
XXXXXXXVI
XXXXXXXVII
XXXXXXXVIII
XXXXXXXIX
XXXXXXXX
XXXXXXXXI
XXXXXXXXII
XXXXXXXXIII
XXXXXXXXIV
XXXXXXXXV
XXXXXXXXVI
XXXXXXXXVII
XXXXXXXXVIII
XXXXXXXXIX
XXXXXXXXX
XXXXXXXXXI
XXXXXXXXXII
XXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXV
XXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXV
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXVIII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXIX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXI
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXII
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX



第２図　調査区全体図（1／600）

多気城跡の所在する宇都宮市は、栃木県の中央部に位置し、関東平野の最奥部にあたる。本城跡は、宇都宮の市街地から北西約９㎞に位置する。この城跡の東側には大谷石で有名な凝灰岩を産出する地域が広がり、本城跡の岩盤も凝灰岩層が見られる。城の東側は姿川、西側は姿川の支流である赤川が南流する。

主郭部分にあたる場所は「御殿平」と呼ばれ、標高は377mである。主郭は土塁により二分され、北側に最高位の場所があり、物見台的な役割を果たしていたものと考えられている。さらに北側の尾根上に延びる曲輪とは堀切により切断される。江戸初期の慶安４年（1651）に成立した『下野一国』によれば、「本丸東西六拾間南北三拾間」とある。東西約109m×南北約54mとなり、山頂部南側の平坦なスペースを指していると思われる。主郭の南側には坂虎口、枡形虎口など幾重にも虎口が設けられ厳重に防御されている様子が窺われる。

主郭から南西に延びる尾根には広い曲輪があり、そこから派生する南東の尾根上には大小の曲輪が階段状に連続する。また、主郭から南東に延びる尾根上にも階段状に曲輪が連続する。

これらの曲輪群を防御するように多気山中腹（標高225m付近）の南麓部を大規模な横堀が巡る。その総延長は約２㎞にわたる。その東端には東へ突出する方形の張出し部が２ヵ所ある。平成３年度にこの付近が調査され、幅約８m、深さが4.5mの薬研堀が確認されている。土塁は内側と外側にあり、内側の土塁は幅約６m、高さ約２mで、内側斜面で三列の石積みが確認されている。そして、土塁の切れた部分で柱穴が確認され、この部分が木戸等を設けた虎口部分であることが判明している。また、この横堀の南西付近の坂虎口の一箇所で、鍵の手状に曲がる土塁の一角に６～７段の石を積み上げた石積遺構が確認されている。城内にはこのような石積遺構が他にも何か所か確認されている。さらに西南麓の標高190m付近にも横堀が巡らされ、南西方向（鹿沼方面）をより強く意識した造りとなっている。

平成４年度には、城の外郭部分に当たる割田遺跡が調査された。この調査では、多気山から独立した南東側の丘陵上で堀・土塁が300mにわたり確認されている。堀の規模は上幅約７m、下幅約0.2m、深さ約4.2mの薬研堀で、土塁は幅６～７m、高さ1.5m、外側にも高さ約１mの土塁がめぐり、内外に土塁をもつ。これは、先に見た多気城の堀の構造と類似し、同時期の普請と考えられる。また、「折り」と土橋が一箇所確認されている。本遺跡以外にも周辺の丘陵上には堀があった可能性があり、これらが多気城の外郭線を成していたと考えられる。この外郭線と東の姿川、西の赤川に囲まれた城の規模は東西約1.5㎞、南北約２㎞となり、関東屈指の大城郭といえる。この外郭線に囲まれた城の南側には、現在でも「下河原」「粉河寺」「清願寺」「裏町」「扇町」「塙田」「源石町」といった宇都宮城下と同じ地名が残っている。このことは、国綱の本城移転が、防御強化の城の機能移転だけではなく、まさに城下町を含む宇都宮氏の本拠の移転であったことを物語っている。次に、本城跡の歴史について概略を述べる。

この城は、康平６年（1063）に宇都宮宗円が築城したとする説や、天正４年（1576）に宇都宮国綱が築城したとする説などがあるが定かではない。城の北東中腹には、現在多気山持宝院不動寺（真言宗）がある。寺内には平安後期作の不動明王坐像が安置されている。この仏像は宇都宮初代宗円が前九年の役（1051～62）の際に、源頼義に従い下向し、勝山（現在のさくら市氏家字勝山）で戦勝祈願を行った時のもので、その後、長治２年（1105）に二代宗綱が、当寺に移し本尊にしたものであると言われている。尚、寺伝によれば、弘仁13年（822）に、勝道上人の弟子尊鎮が馬頭観世音を本尊として開山したと言われている。

また、多気山の南東約１㎞の大谷寺内には平安初期～鎌倉期にかけて彫られた千手観音像をはじめとする大谷磨崖仏（国特別史跡・重文）があり、この一帯が古代から中世初頭にかけては宗教的な空間であったことがわかる。

『宇都宮記』には、国綱が天正４年（1576）２月３日に普請を始め23日間という短期間でこの城を完成させたとある。一ヶ月弱という日数は、150haに及ぶ城域を築城するにあまりにも短すぎるので、基本部分はそれ以前に出来上がっていたと思われる。また、国綱はこのとき９歳であることから、父広綱が計画し実施したものと考えられている。尚、その年の８月７日に広綱は病死したとされる。

江戸後期に書かれた「宇都宮弥三郎国綱御家臣記」（柿沼輝家文書）には「多気兵庫頭」が居住していたことが記載され、宇都宮氏の家臣という家伝の「若目田氏系譜」（若目田久四郎家文書）には、「元亀四（一五七三）癸酉年八月依広綱殿命為多気城主有軍功」と記されている。このことから、元亀年間には多気城は存在し、宇都宮氏の家臣が居住していたと考えられる。

このころ宇都宮家中は、北条方・反北条方のどちらに属するか意見が分かれ、元亀３年（1572）には北条寄りの皆川俊宗が宇都宮領内に侵攻し、これに対し、佐竹・宇都宮方が皆川方の深沢城ほか11の城郭を攻撃している。また、壬生氏内部も宇都宮方の鹿沼城主徳雪斎周長と北条方を志向する壬生城主壬生義雄が対立し、天正７年（1579）に義雄が周長を殺害し、鹿沼城に入城する。このような時代の流れの中で、先に述べた多気城の強化改修工事が行われている。第３図17と18は壬生氏方の城で、その他の城は宇都宮氏方の城である。その多くは天正年間に築城されたと伝えられ、多気城との関連が指摘されている。

天正12年（1584）６月～７月にかけて、佐竹・宇都宮連合軍と北条氏直軍が下野国三毳山南麓の沼尻で対陣し、天正13年（1585）４月には、佐竹・宇都宮連合軍は壬生氏の本拠である鹿沼を攻撃し、続けて壬生・羽生田城を攻めている。これに対し、12月には北条・壬生・那須勢が宇都宮に攻め込み城下が放火されている。このような北条氏の攻勢が強まる中、宇都宮氏は本城を宇都宮城から多気城に移す。「日光山常行堂常住三十講表白」の奥書には「天正十三年酉乙八月廿八日宮ヨリ田野山ヲ城二取」とあり、そのことを裏付けている。また、「桜井武兵衛覚書」に「新宇都宮たけ」、「清水正花武功覚書」に「宇都宮新城」と登場する。尚、本拠を移した後の宇都宮城は有力家臣である玉生美濃守に任せたようである。

天正18年(1590)に北条氏が滅亡後、豊臣秀吉は７月26日～８月３日まで宇都宮城に滞在し「宇都宮仕置」を行っている。「今宮祭祀録」には「上ヨリ御奉行衆七月十三日二宮江御越候御帰之以来悉クたけ宮江移申候」とあり、秀吉滞在後に多気城より宇都宮城に本城を戻したことが窺える。

国綱は、永禄11年（1568）に宇都宮広綱と佐竹義昭の娘との間に嫡子として生まれる。『下野國誌』には父の広綱が天正４年（1576）に32才の若さで亡くなり、国綱が幼少であったため、その死が伏せられていたと書かれている。『佐竹系譜』には元亀３年（1572）に「宇都宮広綱病あり」とあることから、広綱は元亀以降病に伏していたことがわかる。また、その死後は、母である佐竹義昭の娘南呂院と宿老が佐竹義重の後見を受けて政務を取り行っていたようである。その後の佐竹氏の動きを見ると、天正５年（1577）の北条氏の関宿・古河着陣に対し宇都宮氏を支援し、翌年には佐竹義重が壬生氏攻撃のため出陣するなど、下野国内で反北条の旗頭として活動を行っている。

宇都宮氏が多気山に本拠を移す時期は、国綱18歳の頃となる。『今宮祭祀録』によると、同年に国綱が佐竹義重とともに「田気ノ御堂」を建立したとある。このとき義重は三十代後半で、国綱にとっては「東方之衆」の旗頭であるとともに伯父であり、且つ幼少より指導を仰いだ父親的な存在であったと考えられる。父祖伝来の居城である宇都宮城から多気城に本拠を移したのには、北条氏の脅威だけではなく、それに対抗する佐竹氏の戦略的な意向もあったと考えられている。

天正18年（1590）の豊臣秀吉の小田原北条氏攻めにおいて、国綱は義重とともに秀吉に謁見し、豊臣方として行動する。国綱は石田三成の配下として忍城攻め等に参加している。北条氏滅亡後は、秀吉より旧領を安堵されたほか、羽柴侍従の称号を許可されている。

その後、秀吉の朝鮮出兵に参戦するが、慶長２年（1597）に秀吉より突然領地没収・追放の命が下り、国綱は改易となる。

【参考文献】

荒川善夫1993「中世下野の多気山城に関する一考察」『歴史と文化』第二号 栃木県歴史文化研究会

荒川善夫・関口和也 2004「第７節宇都宮氏による多気山城の築城」『鹿沼市史』通史編原始・古代・中世 鹿沼市史編さん委員会

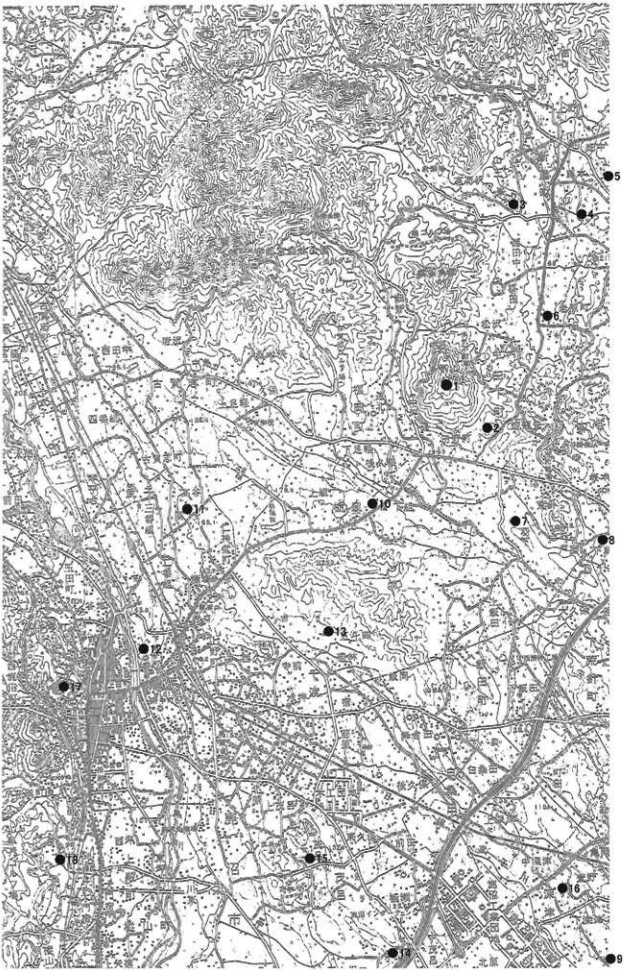
宇都宮市教育委員会1997『多気城跡』

鹿沼市2002『鹿沼の城と館』

栃木県教育委員会1982『栃木県の中世城館跡』

№	遺名跡	所地在	備考
1	多気城跡	宇都宮市田下町ほか	天正 13 年に宇都宮国綱が宇都宮城より本拠を移す。
2	割田遺跡	宇都宮市田野町	平成４年度に多気城の外郭線となる堀・土塁が確認されている。
3	田中城跡	宇都宮市新里町	宇都宮氏家臣田中氏の居館と伝えられる。
4	高橋城跡	宇都宮市新里町	
5	大堀城跡	宇都宮市新里町	宇都宮氏家臣半田氏の居館と伝えられる。
6	岩原城跡	宇都宮市岩原町	宇都宮氏家臣高橋氏の居館と伝えられる。
7	羽下館跡	宇都宮市下荒針町	
8	中城跡	宇都宮市駒生町	平成２年度に城跡の一部を調査。
9	犬飼城跡（根古屋城跡）	宇都宮市上欠町	天正元年に犬飼康吉が城主となったと伝わる。
10	堀の内（栃窟）	鹿沼市栃窟	
11	高谷城跡	鹿沼市高谷町	宇都宮氏家臣高谷隼人が築城したと伝えられる。
12	府所城跡	鹿沼市下武子町	『那須記』に「府郡城主飯岡惣左衛門尉」とある。
13	千渡城跡	鹿沼市千渡	天正年間の築城と伝えられる。『那須記』に城主は宇賀地左京助とある。
14	茂呂城跡	鹿沼市茂呂	『那須記』に「師ノ城主市田備中守」とある。
15	堀ノ内（茂呂）	鹿沼市茂呂	『那須記』に「上師城主山崎丹波守」とある。
16	深津城跡	鹿沼市深津	永禄年間に宇都宮広綱の家臣小林豊後守が築いたとされる。
17	鹿沼城跡	鹿沼市今宮町ほか	天文元年壬生綱房が御殿山に城を築いたとされる。
18	村井城跡	鹿沼市大字村井	壬生綱重三男大門資長の築城と伝えられる。

第１表　周辺城跡一覧表



第３図　周辺城跡分布図（1／50,000）

2　調査概要

今回の調査は、主郭部南側の第１図曲輪Ⅲ南側斜面の竪堀と東側の数段からなる腰曲輪を調査対象とした。特に間伐作業のために造られた作道により削られた部分の造成状況の調査を行った。以下、その結果について記す。

（1）遺構

Ｔ－１（第４図・第５図）

竪堀の南端部に、東西方向で幅１ｍ×長さ７ｍ、南方向に長さ２ｍのＴ字形のトレンチを設定し、堀・土塁の規模等を確認した。

堀は現状から約1.6mを掘り込み、底面はローム面に達する。表層（Ⅰ層）の上に土塁の削平土が載る。第５図Ｂ-Ｂ′断面からもわかるように、堀はこの部分でローム地山を掘り残し、立ち上がりを見せる。堀の両側に土塁をもつが、東側が高く、西側が低いことから、東側の腰曲輪側が内側であることがわかる。東側土塁から堀底までの深さは約６ｍ、外側と内側の土塁間での幅は約12ｍである。

Ｔ－２（第４図・第５図）

このトレンチは、Ｔ－１の北側約22ｍのところに設置した。竪堀の内側土塁の構築状況を確認するために幅1.5ｍ×長さ７ｍのトレンチを設定した。土塁の内側をＫＰ層まで一旦掘り下げ、褐色地山の上に盛土をし、さらに土塁の内側斜面が崩れないように、17～27層（第５図Ｅ-Ｅ′セクション）を版築状に積み上げている。結果的に、土塁の内側には幅約３ｍ、深さ約１ｍの溝状の掘り込みが形成される。１～８層はその溝の覆土層である。

曲輪ｂ・曲輪ｃ（第４図・第５図）

標高297ｍ付近に平坦面をもつ曲輪で、先端部幅20ｍ、平坦部奥側幅30ｍ、奥行き約８ｍの台形状の曲輪である。Ｄ-Ｄ′ラインの地山直上で、一辺20cmの方形で平らな石を確認した。建物の礎石の可能性が考えられる。Ｃ-Ｃ′のセクションからこの曲輪が、地形を造成して造られていることが判明した。また、曲輪ｂの北東部の標高300ｍ付近に先端部幅約10ｍ、平坦部奥側幅約13ｍ、奥行き約5ｍの台形状の小さな平坦部曲輪ｃが見られる。これは、曲輪ｂに侵入した敵に対し上方から攻撃するために設けられたものと考えられる。この部分も、Ｆ-Ｆ′、Ｇ-Ｇ′のセクションから地形を造成して構築されていることが判明した。

曲輪ｄ・曲輪ｅ（第６図・第８図）

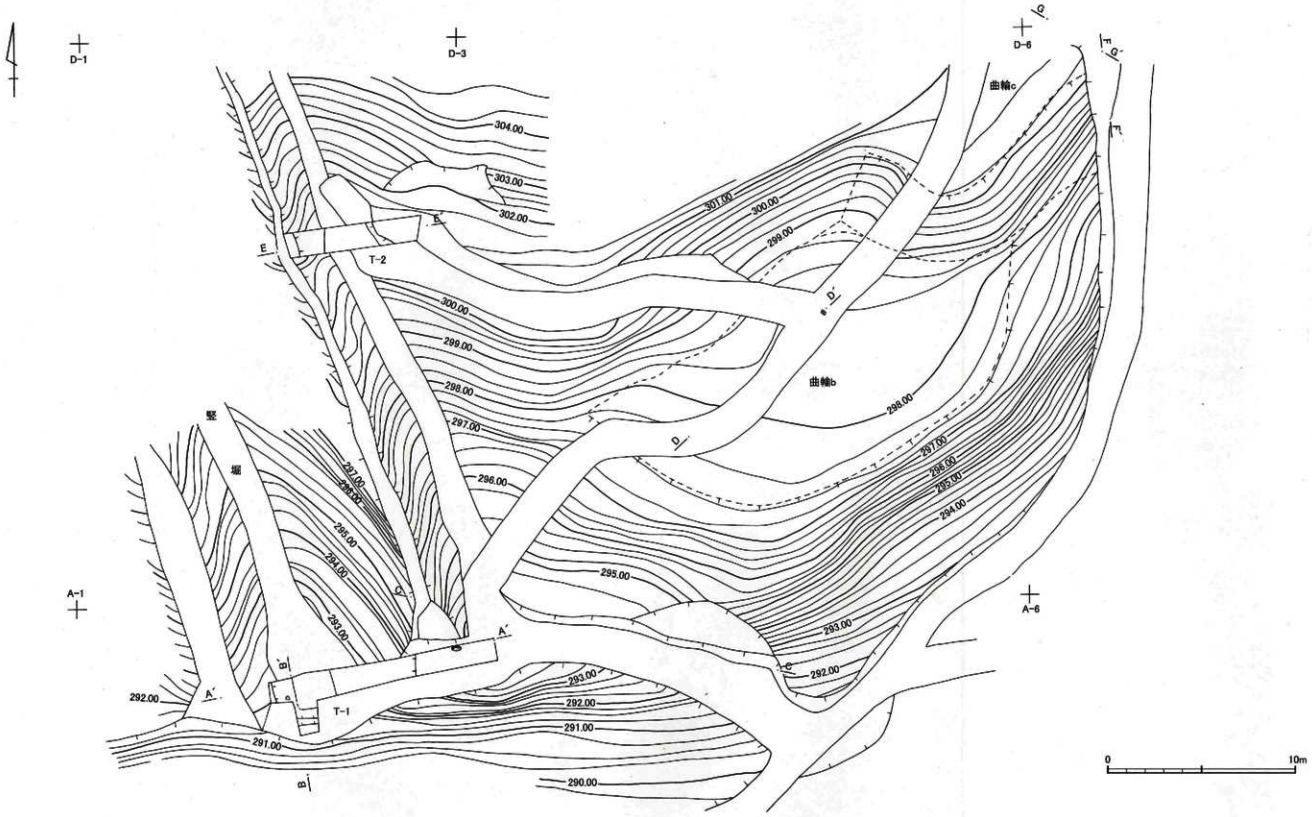
曲輪ｄは標高304ｍ付近に平坦面をもつ曲輪で、先端部幅15ｍ、平坦部奥側幅約25ｍ、奥行き約５ｍの台形状の曲輪である。その右上の標高308ｍ付近に曲輪ｅがある。先端部幅10ｍ、平坦部奥側幅約20ｍ、奥行き約４ｍの台形状の曲輪である。Ｈ-Ｈ′のセクションからこの曲輪が、地形を造成して造られていることが判明した。褐色地山の上に載る1～10層は盛土である。

曲輪ｆ（第７図）

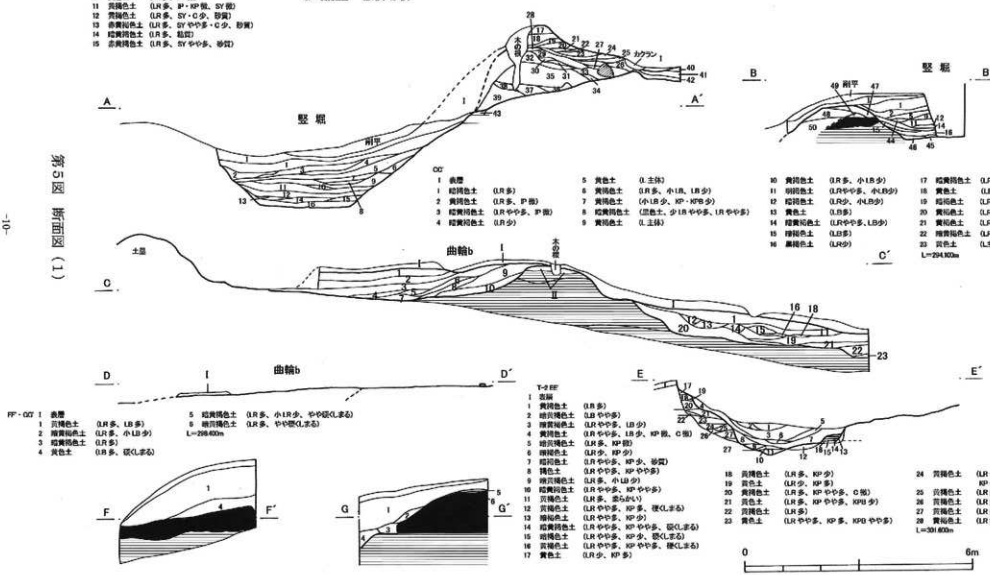
曲輪ｆは標高320ｍ付近に平坦面をもつ曲輪で、先端部幅約40ｍ、平坦部奥側幅約20ｍ、奥行き約７ｍの台形状の曲輪である。この曲輪下の南西角から竪堀がはじまる。

曲輪ｇ（第７図・第８図）

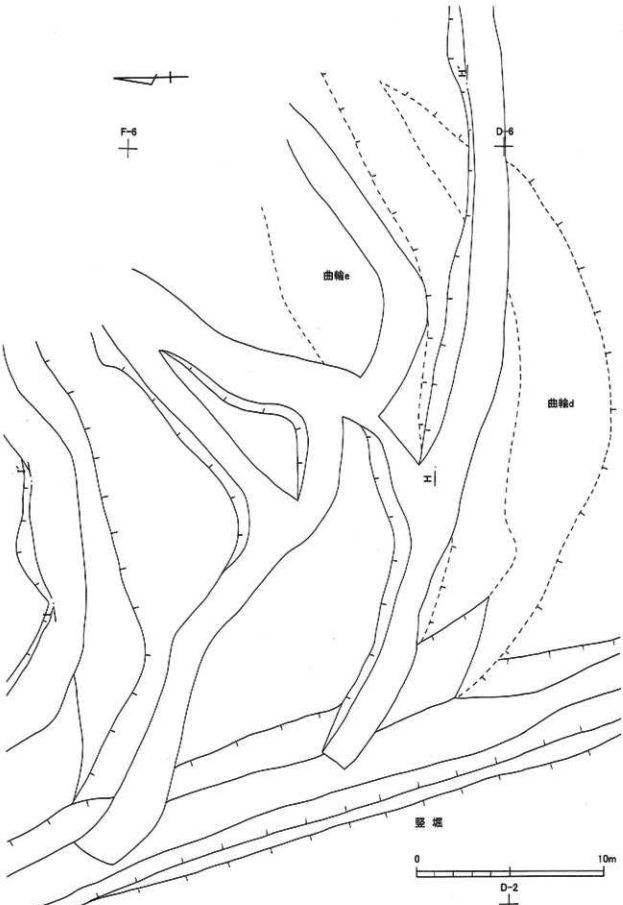
曲輪ｇは標高328ｍ付近に平坦面をもつ曲輪で、先端部幅35ｍ以上、平坦部奥側幅50ｍ以上、奥行き約20ｍの曲輪で、今回の調査区内では最大のものである。Ｋ-Ｋ′はこの曲輪の南東部下セクションで、褐色地山上に１～13層の盛土が載る。さらにその上の盛土状況はＬ-Ｌ′のセクションからわかる。かなり細かい単位で、地山から２ｍ近い盛土がなされている。



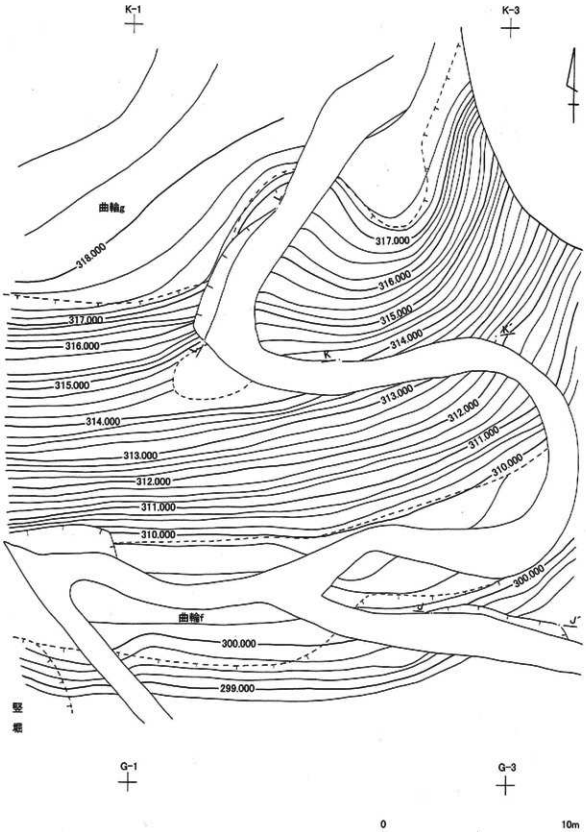
第４図　堅堀・曲輪b・曲輪c平面図（1／200）


T-1
AK・BB'
1 表層
2 黄褐色土 (LR多)
3 黄褐色土 (LR多、KP少)
4 褐黄褐色土 (LR多、KP やや多)
5 暗褐黄色土 (LR多、KP 微)
6 黄褐色土 (LR多、小LB少)
7 黄褐色土 (LR多、硬くしまる)
8 黄褐色土 (LR多、小LB微、やや柔らかい)
9 黄色土 (LR多、小LB少、P・KP微、柔らかい)
10 黄色土 (LR多、SY微)
11 黄褐色土 (LR多、P・KP微、SY微)
12 黄褐色土 (LR多、SY・C少、砂質)
13 赤黄褐色土 (LR多、SY やや多・C少、砂質)
14 暗褐黄色土 (LR多、粘質)
15 赤黄褐色土 (LR多、SY やや多、砂質)
16 暗黄褐色土 (LR多、P少・SY やや多・C少、砂質)
17 暗褐色土 (LR少、KP少)
18 黄色土 (KP多、少KPB やや多)
19 暗褐色土 (小LB少、KP少)
20 黄褐色土 (LB多)
21 暗褐色土 (KP 微)
22 黄褐色土 (LR やや多、KP やや多)
23 黄褐色土 (LR多、KP微)
24 暗黄褐色土 (LR、KP少)
25 暗褐色土 (小LB、KP少)
26 黄褐色土 (LR多、KP少)
27 黄褐色土 (LR多、KP少)
28 褐灰色土 (LR少)
29 黄褐色土 (LR やや多、小KPB少、大KPB少)
30 暗褐色土 (KP微)
31 黄褐色土 (LR やや多、KP やや多)
32 暗褐黄色土 (LR多、KP やや多、小KPB やや多)
33 暗黄褐色土 (LR多、KP、KPB少)
34 黄褐色土 (LB多)
35 黄褐色土 (LR多、KPB少、KP少)
36 暗褐色土 (LR少)
37 褐黄褐色土 (LB多、KPB少)
38 黄色土 (LR やや多、KP多)
39 黄褐色土 (LR多)
40 暗褐色土 (LR少、KPB少)
41 暗褐色土 (LR少、KP少、KPB微)
42 黄色土 (KP少)
43 黄褐色土 (LR多、LBやや多、KP多)
44 黄褐色土 (LR多、砂質)
44 黄褐色土 (LR多、砂質)
45 黄褐色土 (LR多)
46 黄色土 (LR多、小LBやや多、SY、C)
47 黄褐色土 (LR多、硬くしまる)
48 褐黄褐色土 (LR多、小LB少)
49 暗褐色土 (LR少)
50 黄褐色土 (LR多)
L=A=292.700m
L=B=292.600m
A
A'
B
B'
竪穴
廂平
ルクラン
C
C'
曲輪b
土塁
木炭層
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
FF・GG'
1 表層
2 黄褐色土 (LR多、LB多)
3 褐黄褐色土 (LR多、小LB少)
4 黄色土 (LB多、硬くしまる)
5 暗黄褐色土 (LR多、小LR少、やや硬くしまる)
6 暗黄褐色土 (LR多、やや硬くしまる)
L=298.400m
T-2 BB'
1 表層
2 黄褐色土 (LB多)
3 暗黄褐色土 (LB やや多)
4 褐黄褐色土 (LR やや多、LB少)
5 黄褐色土 (LR やや多、LB少、KP微、C微)
6 暗褐色土 (LR少、KP少)
7 暗褐色土 (LR やや多、KP少、砂質)
8 黄色土 (LR やや多、KP やや多)
9 褐黄褐色土 (LR多、小LB少)
10 暗黄褐色土 (LR やや多、KP やや多)
11 黄褐色土 (LR多、柔らかい)
12 黄褐色土 (LR やや多、KP多、硬くしまる)
13 褐色土 (LR やや多、KP多)
14 暗黄褐色土 (LR やや多、KP やや多)
15 暗褐色土 (LR やや多、KP少、硬くしまる)
16 黄褐色土 (LR やや多、KP やや多、硬くしまる)
17 黄色土 (LR少、KP多)
18 黄褐色土 (LR多、KP少)
19 黄色土 (LR少、KP多)
20 黄褐色土 (LR多、KP やや多、C微)
21 黄色土 (LR多、KP やや多、KPB少)
22 黄褐色土 (LR多)
23 黄色土 (LR やや多、KP多、KPB やや多)
24 黄褐色土 (LR やや多、LB やや多、KP少)
25 黄褐色土 (LR多、KP微)
26 黄褐色土 (LR多、KP少)
27 黄褐色土 (LR多、KP微)
28 黄褐色土 (LR多)
L=301.600m
0
6m

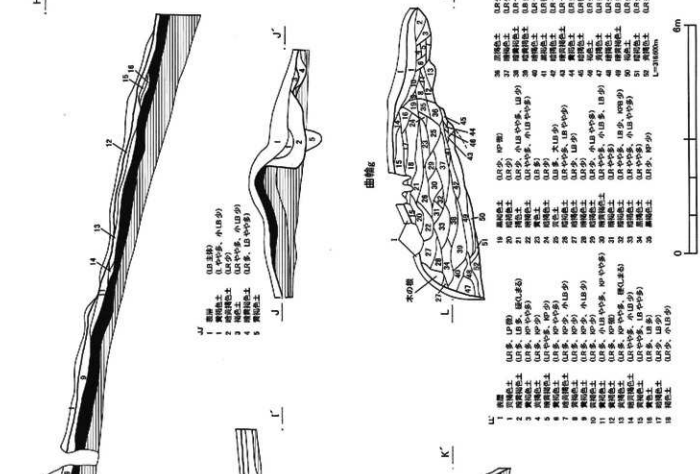
第5図　断面図（1）



第6図　曲輪d・曲輪e　平面図（1／200）



第７図　曲輪f・曲輪g　平面図（1／200）



第８図　断面図（２）

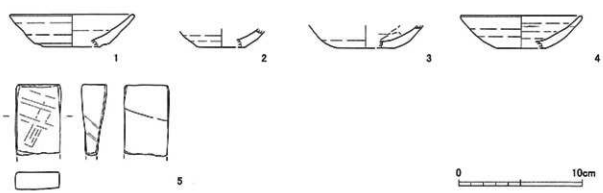
作道による等高線の乱れはあるが、第７図からわかるように元々、この部分は凹形になっており、虎口であった可能性が考えられる。

（２）遺物

出土遺物は、かわらけ数点と砥石１点である。かわらけは、ロクロ成形のもので、すべて 16 世紀代のものである。砥石はＴ－１の堀底から出土した。詳細については観察表のとおりである。

No.	器 種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	出土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	かわらけ	(10.0)	2.6	4.5	平底で、体部は直線的に外傾する。	ロクロ成形。底部糸切り。	橙色	砂粒・赤色スコリア微を含む。	良好	曲輪ｂ	1/6 残　灯明皿
2	かわらけ			(4.6)	平底。	ロクロ成形。底部糸切り後ナデ。	橙褐色	砂粒・赤色スコリア微を含む。	良好	曲輪ｂ	底部一部
3	かわらけ			(4.6)	平底。	ロクロ成形。底部糸切り。	乳白色	砂粒・赤色スコリア微を含む。	良好	曲輪ｆ	1/6残
4	かわらけ	(9.9)	2.6	(4.6)	平底で、体部はやや内湾気味に立ち上がる。	ロクロ成形。底部糸切り。	橙褐色	砂粒・赤色スコリア微を含む。	良好	表採	底部一部
5	砥石	現存長(5.6)	幅3.5			表面に使用痕が見られる。	灰色	砂岩？		Ｔ－１堀底	破片

第２表　出土遺物観察表



第９図　出土遺物実測図

3 おわりに

今回の調査は，主郭南側の竪堀及び曲輪の一部を調査し、次の点が判明した。

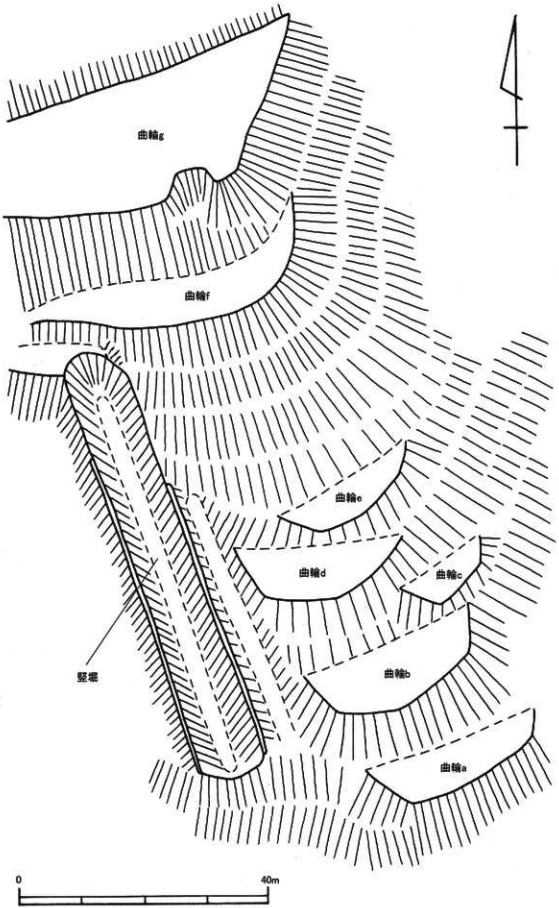
①竪堀は南北方向に掘られ、堀を挟んで両側に土塁を持つ。東側の土塁の内側には１ｍ程の溝が土塁に並行して掘られている。竪堀の規模は上幅約12ｍ、下幅約2.5ｍ、深さ約５ｍの箱堀で、総延長は約70ｍである。竪堀の埋土下層には炭化物や焼土が混じる層が確認されたことから、城内で戦闘があった可能性が考えられる。

②曲輪は調査区内で７段確認された。作道により削られた断面を観察した結果、褐色地山の上にロームブロックを主体とした土を積み上げている状況が確認できた。よって、自然の丘陵部を切り盛りして平坦部を造成していることがわかった。平坦部の規模は、曲輪ｂが約200㎡、曲輪ｃが約60㎡、曲輪ｄが約140㎡、曲輪ｅが約70㎡、曲輪ｆが約220㎡以上、曲輪ｇは850㎡以上で、最小が曲輪ｃ、最大が曲輪ｇである。また曲輪ｃは曲輪ｂの北東に隣接し、曲輪ｂに侵入した敵に対し、上部からの攻撃ができる位置関係となっている。また、曲輪ｄと曲輪ｅも同様の配置となっている。

③出土した遺物は極めて少ないが、かわらけや染付皿の破片が出土している。それらの遺物は16世紀代のものと考えられる。また、かなり使いこまれた砥石が竪堀内から出土しており注目される。

以上の点をまとめてみると、第10図に示すように曲輪は７段設けられている。曲輪aから曲輪fは斜面を切り盛りして幅の狭い平坦部を形成しているが、曲輪gはかなり大きく造成をし、広い平坦部をもつ曲輪を形成している。竪堀は曲輪bから曲輪fの西側に掘られ、堀の東側に高い土塁、西側に低い土塁をもつ。この堀は曲輪f直下で、西からの横堀と連結する。尚、堀の埋土下層に焼土が混入していることから、この城での戦闘があったと考えられる。

今回の調査区は、本丸部分に当たる御殿平の南側に位置することから、腰曲輪や竪堀により堅固に守られていた状況が判明した。特に鹿沼城に本拠を置く壬生氏は、南西方向から侵攻してくることから、この竪堀はそれに対する備えと考えられる。これらの遺構は出土遺物から、『宇都宮記』にある国綱が天正４年（1576）に普請をしたとされる時期もしくは、宇都宮氏が宇都宮城から本拠をこの多気城に移したとされる天正13年（1585）頃の16世紀後半段階に整備されたものと考えられる。



第10図　多気城跡調査区部分竪堀及び腰曲輪想定図（1／600）

第Ⅱ章 岡本城跡

1 はじめに

（1） 調査の経過

岡本城跡は昭和45年４月１日に旧河内町指定史跡に指定された。古里村誌によれば、「南北百八十間、東西百七十間、面積は凡そ十町余りあり、四囲を廻らずに五重の濠をもってす。各濠の深さ凡そ二軒、広さ凡そ八間あり」とある。城郭跡は北東部の小高いところにあり、土塁と一ノ掘は現存しているが、その外側については堀跡や土塁も残っておらず、その正確な位置などはこれまで城跡が未調査であったことから不明であった。

そこで、平成19年の市町合併により岡本城跡が宇都宮市指定史跡となったことや近年、周辺の宅地開発が活発な動きを見せ始めたことから、城跡の現状把握と範囲確認のための調査を平成21年～平成23年度にかけて３回実施した。今回の調査では、50cmコンターで堀・土塁等を描き出し、さらに堀に試掘溝（トレンチ）を入れて規模や位置を確認するなどした。なお調査に当たっては国・県（平成21年度のみ）の補助を得て実施した。

第Ⅰ次調査は、平成21年７月１日に開始し、平成21年８月31日までの期間で実施した。史跡内西側の一ノ堀、二ノ堀、北側の崖下及び主郭部分の虎口周辺に計７本のトレンチを設定し、堀の位置や幅・深さ、虎口周辺の建物跡の確認を行った。調査の結果、主郭部分の堀・土塁の規模や、北崖下にも堀と土塁があったことが確認できた。また、主郭部分の虎口内側には区画溝があることや、溝内から16世紀のかわらけを確認できた。

第Ⅱ次調査は、平成22年８月２日に開始し、平成22年10月13日までの期間で実施した。主郭内東側や主郭部分の虎口周辺及び二ノ堀の東側部分に計７本のトレンチを設定し、主郭内の建物跡や区画溝などの有無について確認を行った。調査の結果、虎口内側に貼石遺構や建物跡を確認した。また、現在残っている北側崖部分の土塁の下から古い時期の堀跡が確認され、城が何回か造り替えられたことが判明した。二ノ堀の東側部分についても第Ⅰ次調査で確認された部分と繋がる堀跡が確認された。

第Ⅲ次調査は、平成23年11月15日に開始し、平成23年12月12日までの期間で実施した。主郭南側の二ノ堀と三ノ堀の間に計８本のトレンチを設定し、二ノ堀の南側の立ち上がり部分や東側崖の土塁・堀・虎口部分の状況を調査した。調査の結果、二ノ堀と三ノ堀との間に二ノ堀よりも古い時期の南北方向の堀跡を確認した。また、虎口部分の柱穴や東側崖際の堀と土塁を確認できた。南北方向の堀跡や崖際の堀跡の様子からこの城は改修工事が数回行われ、最終的に深い堀と土塁をもつ本格的な戦国期の城になったことが判明した。

【調査日誌抄】

（第Ⅰ次調査）

7月 1 日　プレハブ等の設置。測量に先立つ下草刈り。

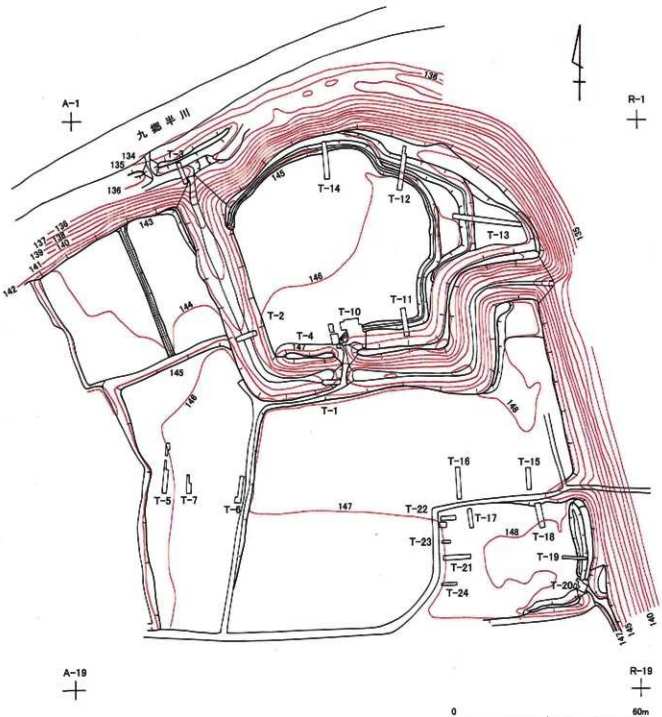
7月 3 日　基準杭・水準点の打設。測量に先立つ下草刈り。

7月 7 日　基準杭打設。地形測量。

7月 9 日～7月17日　地形測量。

7月21日　地形測量。　Ｔ－１を設定し、掘り下げ。

7月23日　Ｔ－１の掘り下げ。Ｔ－２、Ｔ－３を設定し、掘り下げ。



第11図　調査区全体図（1／1,200）

7月27日　T－1、T－2、T－3の掘り下げ。

7月29日　T－1で土器2点出土。T－2の深さ1.5m付近で川原石がまとまって出土。東側の壁付近で小札と思われる鉄製品1点出土。T－4の設定。

7月30日　T－1の掘り下げ。T－2を掘り下げたところ、川原石の範囲の広がりを確認。鎬蓮弁門と思われる青磁片1点出土。

7月31日　T－4の掘り下げ。二の郭北西部の地形測量。

8月3日　T－1の掘り下げ。二の郭南西部の地形測量。

8月4日　T－1下層の掘り下げ。南側の壁を確認。T－2下層の掘り下げ。T－4の掘り下げ。溝及びピットを確認。

8月5日　T－1、T－2下層の掘り下げ。床面の確認できず。T－3掘り下げ。T－4溝及びピットの掘り下げ。溝から16世紀代と思われるかわらけが出土。

8月6日　T－1清掃後写真撮影。セクション図作成。T－3掘り下げ。T－4清掃後写真撮影。平面図及びセクション図作成。二ノ堀と想定される部分にT－5とT－6を設定し、掘り下げ。

8月7日　T－1一部を掘り下げ、セクション図を追加。南北方向のエレベーション作成。T－3の掘り下げ。土塁の表面に小砂利と川原石を確認。T－6掘り下げ。二ノ堀の北側立ち上がりを確認。かわらけの小片が出土。

8月11日　T－3の掘り下げ。T－5の掘り下げ。二ノ堀南側の立ち上がりを確認。埋土中よりかわらけ1点が出土。

8月17日　T－3掘り下げ。T－5掘り下げ。二ノ堀の北側立ち上がりを確認。清掃後写真撮影し、セクション図と平面図を作成。T－6を北に1.5m延長し、掘り下げ。

8月18日　T－4を東側に0.5m程拡張し、掘り下げ。T－6を南と西に0.5m拡張し、掘り下げ。土橋状の張り出しを確認。T－7をT－5とT－6の間に設定し、堀の繋がりを確認する。

8月20日　T－3の掘り下げ。T－6の平面図・コンター図作成。T－7の掘り下げ。平面図作成。今回の調査地区の空撮を実施。

8月21日　T－3の掘り下げを行い、ほぼ完掘状態とする。T－7の平面図・コンター図作成。

8月24日　T－1埋め戻し。T－3清掃後写真撮影をし、セクション図作成。T－4平面図・コンター図作成。

8月25日　T－1、T－5～7の埋め戻し完了。T－2堀底確認のための掘り下げ。T－4の鉄製品の取り上げ。T－3の平面図・コンター図作成。

8月26日　T－3、T－4の埋め戻し完了。T－2の堀底を確認し、セクション図追加。深さ6.5mの薬研堀であることが判明。

8月27日　T－2埋め戻し。調査終了。

8月31日　プレハブ等の撤去。

（第Ⅱ次調査）

8月2日　プレハブ等の設置

8月3日　基準杭・水準点の打設。測量に先立つ下草刈り。

8月5日　基準杭の打設。測量に先立つ下草刈り。T－10を設定。

8月6日　基準杭の打設。測量に先立つ下草刈り。T－10の掘り下げ。

8月10日～8月31日　地形測量。

8月10日　T－10の掘り下げ。T－11を設定し、掘り下げ。

8月17日　T－11の掘り下げ。T－12を設定する。T－10を西に1m拡げ、掘り下げる。川原石や土器片、陶器片が出土。

8月20日　T－12の掘り下げ。

8月23日　T－12の掘り下げ。T－13を設定し、掘り下げ。

8 月24 日　T－１２の掘り下げ。

8 月25 日　T－１２の掘り下げ。溝を確認し、掘り下げた。

8 月27 日　T－１２の掘り下げ。土器片が出土。

8 月30 日　T－１２、T－１３の掘り下げ。

8 月31 日　T－１２の掘り下げ。下層より土器片が数点出土。T－１３の掘り下げ。T－１０を西側に１mほど拡張し、掘り下げ。

9 月 1 日　T－１０の掘り下げとトレンチ際側の貼石遺構の清掃。

9 月 2 日　T－１０の掘り下げとトレンチ際側の貼石遺構の清掃。T－１２、T－１３の掘り下げ。どちらのトレンチからも土器片が出土。

9 月 6 日　T－１１の掘り下げ。下層から硯のかけらが出土。T－１２、T－１３の掘り下げ。T－１０を拡張し、石積みの様子を確認。

9 月 7 日　T－１１を清掃後写真撮影し、セクション図と平面図を作成。T－１２を掘り下げ、清掃後写真撮影し、セクション図を作成。T－１４を設定。

9 月 9 日　T－１２を清掃後写真撮影し、セクション図を作成。T－１４の掘り下げ。

9 月10 日　T－１０内の溝を掘り下げ、溝内からピットを３基確認。T－１１とT－１２の平面図を作成。T－１４の掘り下げ。下層より土器片が多く出土。

9 月13 日　T－１０の貼石遺構の平面図を作成。T－１０を北と西に１m²つ広げる。ピットを１基確認。

9 月14 日　T－１０の貼石遺構の平面図を作成。T－１０を西側に1.5m拡げ、掘り下げる。T－１４の掘り下げ。下層より土器片と鉄器が出土。

9 月15 日　T－１０の貼石遺構とT－１０の平面図を作成。T－１２の掘り下げ。T－１３の清掃後写真撮影し、セクション図を作成。T－１４の掘り下げ。下層から土器片が数点出土。T－１４の清掃後写真撮影し、セクション図、平面図を作成。T－１５、T－１６を設定し、掘り下げ。

9 月17 日　T－１０内の溝を掘り下げ、清掃後写真撮影した。貼石遺構から茶臼が出土した。その後平面図・セクション図を作成。T－１２を50cmほど延長して掘り下げ、平面図とセクション図を作成。T－１３を清掃後写真撮影し、平面図とセクション図を作成。T－１４内の溝を掘り下げたところ、鉄鏃や大きなかわらけ片が出土した。その後清掃し、写真撮影後平面図を作成。T－１２で見られた古い溝とこの溝が繋がることが判明した。

9 月21 日　T－１０の断ち割り。土壁盛土以前の古い溝を確認。T－１２の平面図とセクション図の追加後、埋め戻し。T－１３を掘り下げ堀底を確認。T－１４の溝を掘り下げた後、写真撮影をし、セクション図と平面図を作成。

9 月22 日　T－１０の清掃後、完掘写真を撮影。セクション図・平面図の作成。T－１１の埋め戻し。T－１３の東側の掘り下げ。T－１２を60cm北側に伸ばし、掘り下げた。T－１３の柱穴を掘り下げた。T－１２とT－１４の埋め戻し。

9 月30 日　T－１０の貼石遺構の平面図・コンター図を作成後、埋め戻し。T－１３の平面図とセクション図を作成後、埋め戻し。プレハブ等の撤去。

10月 1 日　T－１５とT－１６の掘り下げ。堀の北側の立ち上がりを確認する。

10月 4 日　T－１５とT－１６の掘り下げ。堀底を確認する。

10月 5 日　T－１６の清掃後、写真撮影しセクション図を作成した。T－１５のセクション図の作成。

10月 6 日　T－１５の清掃後、写真撮影した。その後埋め戻し。T－１６の埋め戻し。

10月 8 日　T－１５とT－１６の埋め戻し。

10月12日　T－１５とT－１６の埋め戻し。調査終了。

（第Ⅲ次調査）

11月14日　プレハブ等の設置。

11月15日　測量に先立つ下草刈り。

11月18日～12月5日　地形測量。

11月18日　T－17を設定し掘り下げた。土器片が1点出土。T－18を設定した。

11月22日　T－17を北側に50cm伸ばし掘り下げた。T－18の掘り下げ。土器片が1点出土。

11月25日　T－17、T－18の掘り下げ。二ノ堀の南側の立ち上がりを確認。二ノ堀の1.5m南側に二ノ堀より古い時期の溝を確認。T－19を設定し、掘り下げ。

11月28日　T－17の清掃後、写真撮影した。T－18の掘り下げ。T－19の掘り下げ、床面を確認。T－20を設定。

12月1日　T－17のセクション図を作成し、完掘する。T－18の清掃後、写真撮影した。T－19の掘り下げ。T－20の掘り下げ。柱穴を確認する。T－21を設定し、掘り下げ。

12月2日　T－18のセクション図を作成。T－19の掘り下げ、床面の確認。T－20を東に拡張。T－21で土坑2基と溝1条を確認し、掘り下げた。

12月5日　T－17とT－18の平面図を作成。T－19の掘り下げ。薬研堀であることが判明。T－20をさらに拡張し、柱穴を探す。T－21内の土坑と溝を掘り下げた。T－21の北側に溝の繋がりを確認するためにT－22を設定し、掘り下げた。

12月6日　T－17の平面図作成。T－19を掘り下げ、床面を確認し、セクション図を作成。T－21内の溝を掘り下げ、鉄製具が出土する。遺物出土状況を写真撮影し、平面図を作成。T－22を掘り下げ、南に2m拡張した。T－21とT－22の溝の繋がりを確認するためにT－23とT－24を設定し、掘り下げた。かわらけ片・内耳土器片が出土。

12月7日　T－19を掘り下げ、床面を確認する。その後、平面図とセクション図を作成。T－20の平面図とセクション図を作成。T－21の完掘写真を撮影。T－22を完掘し、セクション図を作成。T－23とT－24を掘り下げ、古い堀跡の繋がりを確認。

12月9日　T－17、T－19の清掃後、完掘写真を撮影。T－20を拡げ、柱穴を探す。T－21の清掃後、セクションを写真撮影。T－22を清掃後、セクションと完掘写真を撮影。T－23のセクション図の作成。T－24の清掃後、完掘写真を撮影し、セクション図を作成した。

12月12日　T－17、T－18の埋め戻し。T－19のセクション図を作成し、埋め戻す。T－20を掘り下げ、追加のセクション図を作成する。その後、清掃しセクションと完掘写真を撮影。T－22を清掃し、セクション図を作成。T－24のセクション図を作成する。3番目の堀の層から茶臼が出土。平面図を作成後、埋め戻しをする。

12月13日　T－21とT－23のセクション図を作成後、埋め戻し。調査終了。

12月14日　プレハブ等の撤去。

（2）　遺跡の環境

岡本城跡の所在する宇都宮市は、栃木県の中央部に位置し、関東平野の最奥部にあたる。岡本城跡は栃木県の中央部を南流している鬼怒川の右岸に位置し、宇都宮市街地の北東へ約9km、高根沢町の中心地から西南西へ約4kmに位置する。

岡本城跡は鬼怒川右岸の標高約140mの岡本台地上に立地する。岡本台地は岡本城跡を北東端とし南西に傾斜する台地である。台地を沿うように九郷半川が流れており、台地下部の北側と東側はほとんどが水田である。周辺には民家が多少あり、南側には宇都宮市立岡本北小学校がある。

次に本遺跡の周辺約2km圏内の遺跡を中心に、歴史的環境について概略を述べる。

旧石器時代

岡本台地の段丘縁に位置する日枝神社南遺跡(9)では、チョッパー、フレイクが出土している。旧石器時代の遺跡は本遺跡のみであるが、立地的には調査が進めば他にも発見される可能性がある。

縄文時代

中期は、日吉神社北遺跡(6)、第二公園南遺跡(12)、第一公園東遺跡(14)等で加曽利E式等の土器片が、後期は古里中学校遺跡(2)、岡本小学校遺跡(8)で堀之内式等の土器片が出土しているが、現在はほとんどの遺跡が消滅しており、遺構も不明である。

弥生時代

現在のところ、未発見である。

古墳時代の集落

現在のところ、未発見である。

古墳時代の古墳

日枝神社南古墳は、平成元年に河内町教育委員会が実施した発掘調査の結果、古墳ではなく経塚であったことが判明した。このことから、近接した第二公園内古墳群（円墳２基）も古墳ではない可能性が出てきた。

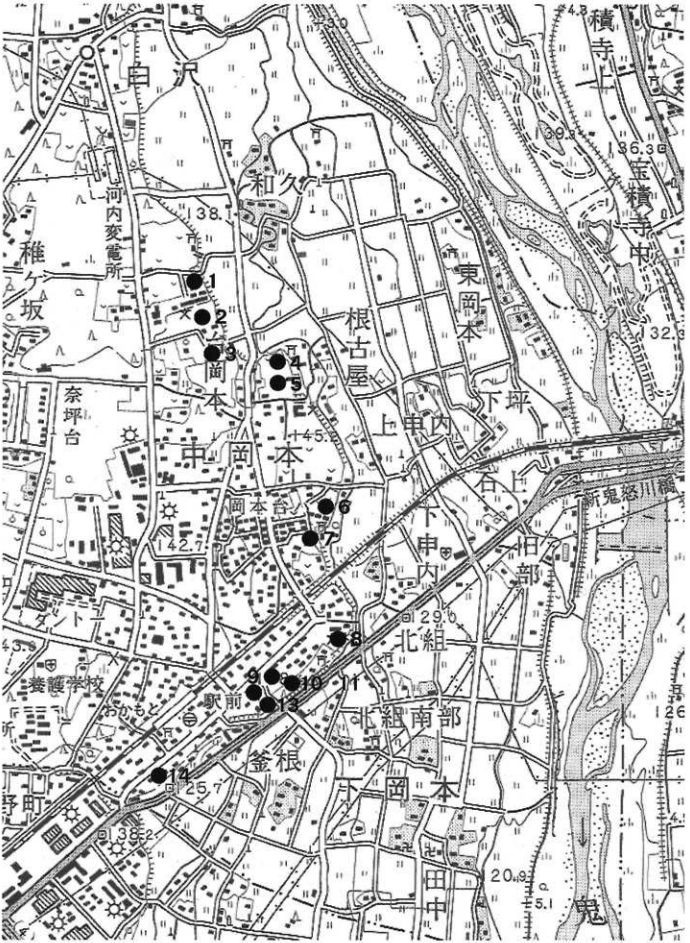
飛鳥時代以降

古里中学校北遺跡(1)、岡本城内遺跡(5)、日吉神社北遺跡(6)、日吉神社西遺跡(7)で土師器の土器片が出土しているが、現在のところほとんどの遺跡が消滅しており、遺構についても不明である。

（参考文献）河内町教育委員会1997『日枝神社南遺跡・日枝神社南古墳発掘調査報告書』

NO.	遺跡名	所在地	時代と種別	概要
1	古里中学校北遺跡	宇都宮市中岡本町	土師器散布地	
2	古里中学校遺跡	宇都宮市中岡本町	縄文(後期)散布地	堀之内式
3	寺山遺跡	宇都宮市中岡本町	南北朝～室町の寺院跡	
4	岡本城跡	宇都宮市中岡本町	室町時代の城館跡	
5	岡本城内遺跡	宇都宮市中岡本町	土師器散布地	
6	日吉神社北遺跡	宇都宮市中岡本町	縄文(中期)土師器散布地	加曽利E式
7	日吉神社西遺跡	宇都宮市中岡本町	縄文　土師器散布地	
8	岡本小学校遺跡	宇都宮市下岡本町	縄文(後期)散布地	
9	日枝神社南遺跡	宇都宮市下岡本町	旧石器時代	チョッパー・フレイク出土
10	第二公園内古墳群	宇都宮市下岡本町	古墳時代の古墳	円墳(？)2基
11	日枝神社南古墳	宇都宮市下岡本町	古代の道路跡 江戸時代の経塚	経塚1基、東山道跡
12	第二公園南遺跡	宇都宮市下岡本町	縄文(中期)散布地	加曽利E式
13	第二公園古墳群	宇都宮市下岡本町		
14	第一公園東遺跡	宇都宮市下岡本町	縄文(中期)散布地	

第３表　周辺遺跡一覧表



第12図　周辺遺跡分布図（1／50,000）

2 調査概要

調査は、三次にわたり行った。第Ⅰ次調査ではＴ－１～Ｔ－７の７本のトレンチを設定し、第Ⅱ次調査ではＴ－10～Ｔ－16の７本のトレンチを設定し、第Ⅲ次調査ではＴ－17～Ｔ－24の８本のトレンチを設定した。以下、その結果について記す。

（1）遺構

Ｔ－１（第13図）

主郭への虎口部分と考えられる南側中央土橋状遺構の西側に、幅1.5m×長さ６mのトレンチを設定し、遺構の確認を行った。

現状では土橋状となっている遺構は、断面観察の結果、後世に作業用として盛土されたものであることが判明した。１～６層は堀が埋まった後に盛土された層である。保存目的の調査であるため、２m以上の掘り下げを行わなかったが、部分的に掘り下げた結果、堀底はＫＰ層下のローム層まで達し、現地表面から堀底までの深さは約３mであることがわかった。土塁の標高が147.400mであることから、土塁頂部から堀底までの深さは約６m、堀幅は約12mを測る。

Ｔ－２（第14図）

Ｔ－２は、主郭の西側の堀の規模等を確認するために、幅1.4m×長さ5.6mのトレンチを設定し調査を行った。この場所は、主郭の土塁が後世に削平されている。保存目的の調査であるため、２m以上の掘り下げを行わなかったが、部分的に掘り下げた結果、堀底はＫＰ層下のローム層まで達し、現地表面から堀底までの深さは約2.6mであることがわかった。また、堀の断面形状は薬研堀と考えられ、推定の堀底幅は約40cm、上幅は約10mを測ると推定される。なお、埋土中層から川原石がまとまって出土した。

Ｔ－３（第15図）

Ｔ－３は、主郭の北側崖下をめぐる堀の規模等を確認するために、幅1.4m×長さ7.2mのトレンチを設定し調査を行った。調査の結果、幅約５m、深さ60～80cmの堀が崖下裾部をめぐっていることが判明した。また、その外側には40～50cmも盛土による土塁が併行してめぐり、さらにその外側を九郷半川が流れている。堀底は粘土混じりの礫層で、調査中も水が湧き出してくることから、当時は水堀であった可能性がある。堀底の標高が、135.250mであることから、主郭との比高は約10mである。

Ｔ－４（第16図）

Ｔ－４は、主郭の南側中央の虎口と思われる土塁の切れている内側の状況を確認するために、幅２m×長さ７mのトレンチを設定し調査を行った。調査の結果、現状では確認できない溝跡が確認できた。その規模は幅約３m、深さ約80cmの逆台形状の溝跡（ＳＤ０１）で、底面から川原石が多く出土した。溝底面はＩＰ層中である。また、溝内から、直径20cmの柱穴が２基確認できた。溝は土塁と併行して掘られ、土塁が切れた入口と思われる部分で内側に屈曲する。第Ⅱ次調査で、この西側を調査したところ、この続きと思われる溝が確認できたことから、入口部分において溝が凹形に掘られ、虎口部分を区画していたことが判明した。

Ｔ－５（第17図）

Ｔ－５は、主郭の南西側の二ノ堀を確認するために、幅1.4m×長さ16mのトレンチを設定し調査を行った。この場所は、主郭の南西側で、現在は畑となっており堀跡の痕跡はみられないが、地元住民の話や、『河内町史』などから二ノ堀の存在が想定された。調査の結果、堀幅約９m、深さ約１mの堀を確認した。保存目的の調査であるため、堀の立ち上がり部分のみの調査とした。

この堀の南側に隣接して、幅1.6m、深さ50cmの溝跡が確認できた。断面観察の結果、二ノ堀の方が古く溝の方が新しいことが判明した。

Ｔ－６（第18図）

Ｔ－６は、Ｔ－５の東側28mのところに二ノ堀のつながりを確認するために、幅１ｍ×長さ8.6mのトレンチを設定し調査を行った。すぐ東側を現在の畑道がとおっているが、地元住民の話では、以前はこのトレンチ付近に道があったとのことである。調査の結果、二ノ堀の北側の掘り込みラインを確認した。

堀はこの場所でクランクし南側に突出し、Ｃ－Ｃ′断面でわかるように堀底も西側が上がってきていることから、土橋の可能性がある。Ａ－Ａ′での堀底の標高は、145.500mで、ＩＰ層が堀底となる。

Ｔ－７（第19図）

Ｔ－７は、Ｔ－５とＴ－６の間に二ノ堀のつながりを確認するために、幅1.4m×長さ６mのトレンチを設定し調査を行った。調査の結果、このトレンチを斜めに横切る堀を確認した。二ノ堀の南側のラインと考えられる。現況からの堀底の深さは1.4mで、堀底の標高は145.700mである。

Ｔ－１０（第20図）

第Ｉ次調査のＴ－４の東側に、幅８ｍ×長さ８ｍのトレンチを設定し、主郭の南側中央の虎口と思われる内側の状況を確認するための調査を行った。調査前に土塁上に川原石が散在していたことから、虎口に関係する遺構と思われた。調査の結果、土塁が１ｍほど積まれた後に、その斜面上に川原石を古墳の葺石のように葺いている状況が確認できた。ただし、土塁の頂部まではなく、幅約５ｍ、長さ約３ｍの土塁の内側のみに川原石を葺いている。

土塁裾部では幅約２ｍ、深さ60cmの区画溝が確認された。この溝は位置関係からＴ－４のＳＤ０１とつながるものと考えられる。さらにＳＤ０１と接続する南北方向の幅約1.4ｍ、深さ約40cmの溝を確認した。また、Ｇ－Ｇ′の断面観察の結果、土塁構築以前の溝跡も確認された。

Ｃ－Ｃ′ラインでは土塁下端部で柱穴と思われるピットを１箇所確認したが、反対側の土塁下端部で対となるピットを確認することができず、門に関連する遺構は見つからなかった。

Ｉ－Ｉ′の断面観察から区画溝に切られたピットやＦ－Ｆ′の断面観察から整地層（21層）に切られたピットが確認され、城の最終段階以前の柱穴で、この部分に掘立柱建物が建っていたものと思われる。

Ｔ－１１（第21図）

Ｔ－１１は、主郭の南東部の土塁内側の状況を確認するために、幅1.6ｍ×長さ９ｍのトレンチを設定し調査を行った。現状でも見られた溝部を調査した結果、幅約２ｍ、深さ約60cmの断面逆台形の溝であることが確認できた。断面形状や規模が同じことからＳＤ０１と同一の遺構と考えられる。

Ｔ－１２（第22図）

Ｔ－１２は、主郭の北側土塁の規模等を確認するために、幅1.6ｍ×長さ14mのトレンチを設定し調査を行った。調査の結果、５本の溝もしくは堀跡を確認した。

ＳＤ０３は幅約１ｍ、深さ約20cmの浅い溝跡で、整地層（１層）が上にのっていることから、それ以前の遺構であることがわかる。

ＳＤ０４は幅約２ｍ、深さ約60cmの断面逆台形状を呈する溝跡で、断面観察から５本の中では一番新しい時期のものである。その形状や規模はＳＤ０１に類似する。

ＳＤ０５は上幅約2.6ｍ、下幅0.8ｍ、深さ約１ｍの溝跡もしくは堀跡で、断面観察から２時期の変遷が見られる。ＳＤ０４に切られていることからそれ以前の遺構と考えられる。

ＳＤ０６は幅60～80㎝、深さ60㎝の溝跡で、ＳＤ０５、ＳＤ０７に切られることから一番古い遺構と考えられる。

ＳＤ０７は上幅約２m、下幅0.3m、深さ約１mの溝跡もしくは堀跡で、Ａ－Ａ′の断面観察からＳＤ０６→ＳＤ０７→ＳＤ０５の順と考えられる。

Ｔ－１３（第23図）

Ｔ－１３は、主郭が東側に張出す部分の状況を確認するために、幅1.2m×長さ18mのトレンチを設定し調査を行った。

調査の結果、溝２条と堀１基、土坑１基、柱穴等を確認した。

一番西側の溝は、幅約60㎝、深さ約20㎝のU字形の溝跡で、形状や規模、位置関係からＳＤ０３とのつながりも考えられるが、断面観察の結果、整地層を切っていることから、新しい時期の溝と思われる。その東側の溝跡は、幅約２m、深さ約60㎝の断面Ｖ字形を呈する。断面形状はやや異なるが、ＳＤ０１の繋がりと考えられる。

また、この溝跡に切られ、整地層（６層）下から上幅約６m、下幅約４m、深さ70㎝の南北方向の堀跡を確認した。この堀跡の延長上には、現状の主郭を囲む堀の方向と一致する。

ＳＫ０１は崖際の土塁下より、長軸1.2m、幅１m、深さ60㎝の長方形のものが１基確認できた。整地層下であることから、一段階古い時期の遺構である。

Ｔ－１４（第24図）

Ｔ－１４は、Ｔ－１２の西側22mの位置に、北側土塁の規模等を確認するために、幅1.6m×長さ11mのトレンチを設定し調査を行った。

調査の結果、溝跡１条と堀１基を確認した。溝跡は、幅約２m、深さ60㎝の断面逆台形状を呈する。その規模や形状からＳＤ０４と同一遺構と考えられる。また、この溝跡は、北側の土塁とも一体のものであり、城の最終段階に存在したものと考えられる。

この溝跡の南へ５mのところで、上幅3.4m、下幅約１m、深さ約1.5mの断面逆台形状の堀跡が確認できた。整地層（１層）下からの確認であることから、それ以前の堀跡である。堀埋土中から15世紀代と思われるかわらけが出土している。

Ｔ－１５（第25図）

Ｔ－１５は、二ノ堀のつながりを確認するために、幅1.4m×長さ７mのトレンチを設定し調査を行った。調査の結果、二ノ堀北側のラインを確認することができた。土塁は削平により見られず、表土層を剥ぐとすぐに褐色地山となった。堀の傾斜角は50度である。遺構保護の調査であることから深さ２mまでの掘り下げとした。

Ｔ－１６（第25図）

Ｔ－１６は、二ノ堀のつながりを確認するために、幅1.4m×長さ10mのトレンチを設定し調査を行った。調査の結果、二ノ堀北側のラインを確認することができた。土塁は削平により見られず、表土層を剥ぐとすぐに今市軽石層（IP）の地山となった。堀の傾斜角は45度である。遺構保護の調査であることから深さ２mまでの掘り下げとした。

Ｔ－１７（第26図）

第Ⅱ次調査で行った二ノ堀の南側ラインを確認するために、幅1.4m×長さ3.2mのトレンチを設定し、遺構の確認を行った。

トレンチ北辺から40cm南側で二ノ堀の掘り込みラインを確認した。このすぐ北側を現在も使用している農道がとおっているため、これ以上の調査は実施しなかった。

また、この掘り込みより40cm南側で溝跡を１条確認した。幅は約２m、深さ約60cmの断面U字形を呈する（ＳＤ０８）。現状ではその痕跡は見られないため、城の遺構に関係するものと思われる。

Ｔ－１８（第26図）

Ｔ－１７の東側20mに、二ノ堀の南側ラインを確認するために、幅1.8m×長さ８mのトレンチを設定し調査を行った。

トレンチ北辺から70cm南側で二ノ堀の掘り込みラインを確認した。このすぐ北側を現在も使用している農道がとおっているため、これ以上の調査は実施しなかった。

また、この掘り込みより１m南側でＴ－１７で確認した溝跡のつながりを確認した。幅は約1.6m、深さ約80cmの断面U字形を呈し、ＳＤ０８のつながりと考えられる。

Ｔ－１９（第27図）

Ｔ－１９は、三ノ郭の東側崖上の土塁の規模等を確認するために、幅１m×長さ８mのトレンチを設定し調査を行った。調査の結果、２時期の溝跡が確認できた。古い時期の溝跡は幅約2.4m、深さ約40cmの浅く幅広のもので、新しい時期の物は幅約２m、深さ約１mの断面U字形を呈するもので、崖上端の土塁と一体のものである。現況での土塁の高さは約１mである。

Ｔ－２０（第28図）

三ノ郭の虎口部分と思われる土塁の切れている内側の状況を確認するために、幅３m×長さ4.2mのトレンチを設定し調査を行った。調査の結果、現状では確認できない溝跡が確認できた。その規模は幅約80cm、深さ約20cmの浅い溝跡である。土塁が切れている部分であることから、虎口に関係する溝であると考えられるが、門等の遺構は確認できなかった。

Ｔ－２１（第30図）

Ｔ－２１は、現在農道が南北にとおっている場所で、地形が西に向かって緩く傾斜し、何らかの遺構があると考えられたことから、幅1.5m×長さ8.6mのトレンチを設定し調査を行った。

調査の結果、現状では埋まってしまっている堀跡を確認した。断面観察の結果、この堀跡は４回の掘り直しが確認できた。一番古い時期のものが、一番深く、トレンチの西壁側で確認され、現況から約２mの深さである（Ⅰ期）。26～30層の自然堆積で、形状から箱堀であったと考えられる。次に23～25層の薬研堀と考えられるもので、底幅は40cmである（Ⅱ期）。次は20～22層で、底幅は2.4m以上、現況からの深さが約１mである（Ⅲ期）。次は15～18層で、現況からの深さが1.2mでU字形を呈するもの（Ⅳ期）で、堀というよりは溝跡の表現の方が適切かもしれない。次に７層で、上幅１m、深さ40cmの溝跡で、その形状や規模からＳＤ０８と同じものと考えられる。

そしてこれらは、整地層（２～６層）によりパックされており、城の最終段階では機能していなかったものと思われる。

Ｔ－２２（第30図）

Ｔ－２１の北側６mのところにＴ－２１で新たに見つかった堀のつながりを確認するために、幅1.6m×長さ4.6mのトレンチと、幅1.6m×長さ2.4mのトレンチとを設定した。北側のトレンチではＳＤ０８

のつながりと考えられる幅約１m、深さ約40cmの溝跡を確認した。

南側のトレンチでは、T－２１で確認された堀の繋がりと考えられる遺構の上場を確認したが、現道部分に近いことからこれ以上の調査はできなかった。

T－２３（第30図）

T－２１とT－２２の間にトレンチを設定し、堀の繋がりを確認した。

断面観察の結果、T－２１同様４回の掘り直しが確認できた。Ⅰ期は12～17層で、現況から約1.8mの深さである。Ⅱ期は11層の薬研堀で、底幅は40cm、深さ1.7mである。Ⅲ期は10層の箱堀で、現況からの深さが約１mである。Ⅳ期は７～９層で、現況からの深さが1.2mでU字形を呈する溝跡である。Ⅴ期は６層で、上幅80cm、深さ30cmの溝跡で、Ⅳ期の溝跡の上層に位置する。

そしてこれらは、整地層（３～５層）によりパックされており、城の最終段階では機能していなかったものと思われる。

T－２４（第29図）

T－２４は、T－２１の南側７mに設定し、堀の繋がりを確認した。

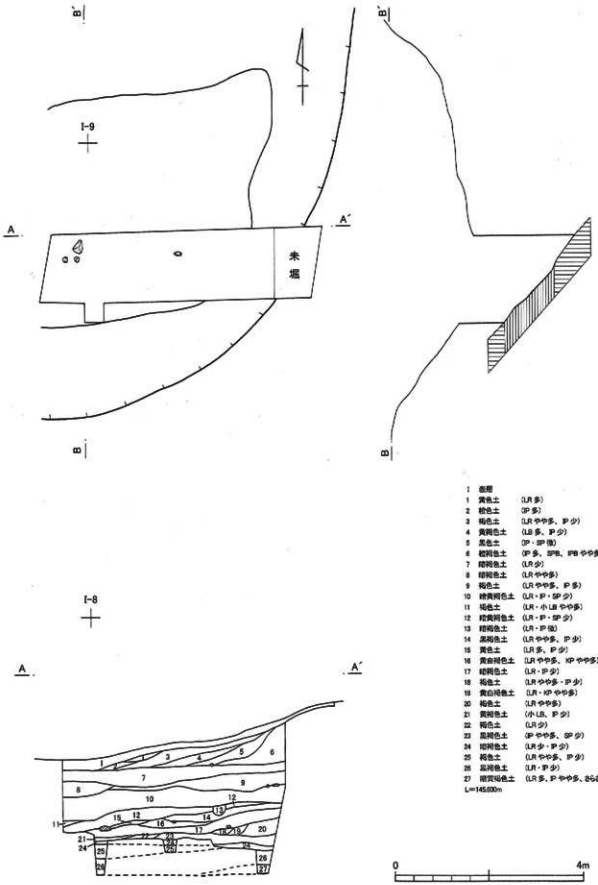
断面観察の結果、T－２１同様４回の掘り直しが確認できた。Ⅰ期は17～22層で、現況から約1.4mの深さである。Ⅱ期は16層の薬研堀で、底幅は20cm、深さ1.4mである。Ⅲ期は15層の箱堀で、現況からの深さが約0.8mである。Ⅳ期は11～13層で、現況からの深さが1.2mでU字形を呈する溝跡である。Ⅴ期は10層で、上幅１m、深さ60cmの溝跡である。

そしてこれらは、整地層（１～３・７層）によりパックされており、他のトレンチで確認されたのと同様に城の最終段階では機能していなかったものと思われる。

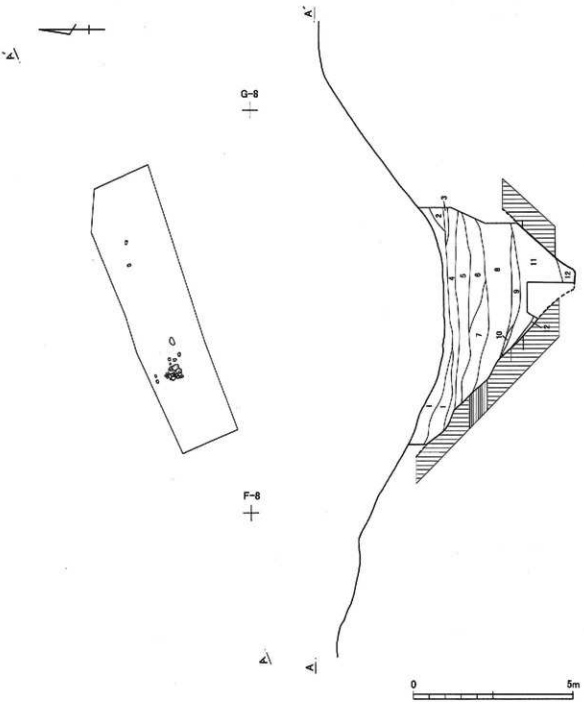
（２）遺物

出土遺物は、かわらけ、内耳土器、青磁、白磁、染付、瀬戸焼、石製品（茶臼、砥石）、鉄製品（刀子、鉄鏃、紡錘車、釘、鉄滓）などが出土した。かわらけは、ロクロ成形のもので、すべて15～16世紀代のものである。詳細については観察表（第４表・第５表）のとおりである。

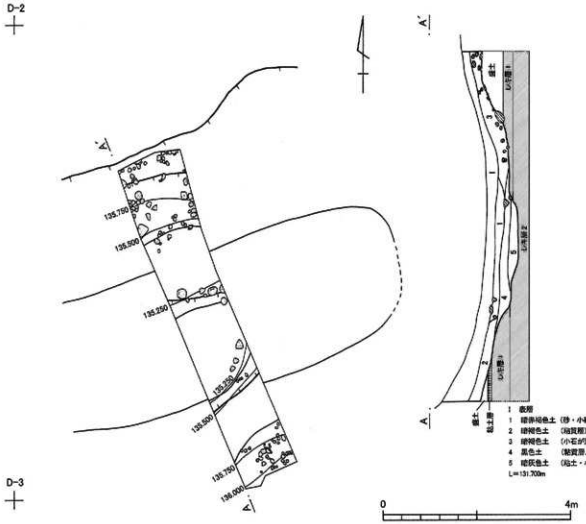
なお、53の内耳土器は、今回の調査区の外側にあたる中岡本地内の個人住宅建設に先立つ工事立会の際に出土したものである。


B'
I-9
A
A'
未掘
B
B'
B
I-8
A
A'
1 表層
1 黄色土 (LR多)
2 橙色土 (IP多)
3 褐色土 (LR やや多、IP少)
4 黄褐色土 (LR多、IP少)
5 黒色土 (IP・SP微)
6 橙褐色土 (IP多、SPB、IPB やや多)
7 暗褐色土 (LR少)
8 暗褐色土 (LR やや多)
9 褐色土 (LR やや多、IP多)
10 暗黄褐色土 (LR・IP・SP少)
11 褐色土 (LR・小LB やや多)
12 暗黄褐色土 (LR・IP・SP少)
13 暗褐色土 (LR・IP微)
14 黒褐色土 (LR やや多、IP少)
15 黄色土 (LR多、IP少)
16 黄白褐色土 (LR やや多、KP やや多)
17 暗褐色土 (LR・IP少)
18 褐色土 (LR やや多・IP少)
19 黄白褐色土 (LR・KP やや多)
20 褐色土 (LR やや多)
21 黄褐色土 (小LB、IP少)
22 褐色土 (LR少)
23 黒褐色土 (IP やや多、SP少)
24 暗褐色土 (LR少・IP少)
25 褐色土 (LR やや多、IP少)
26 黒褐色土 (LR・IP少)
27 暗黄褐色土 (LR多、IP やや多、さらさら)
L=145.030m
0
4m

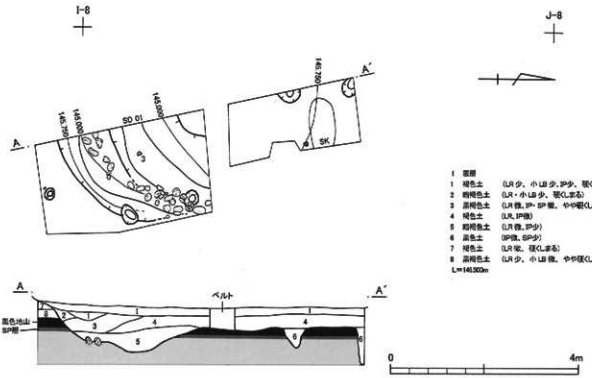
第13図　T－1平・断面図



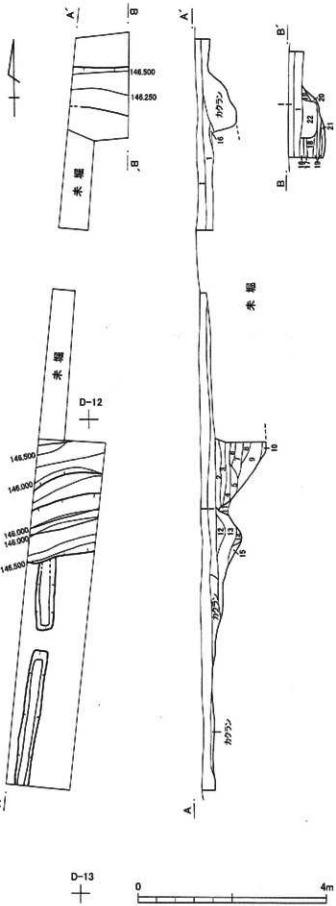
第14図　T－2平・断面図



第15図　T－3平・断面図

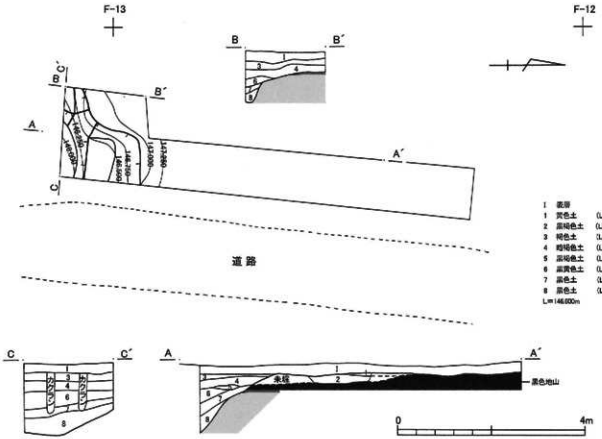


第16図　T－4平・断面図

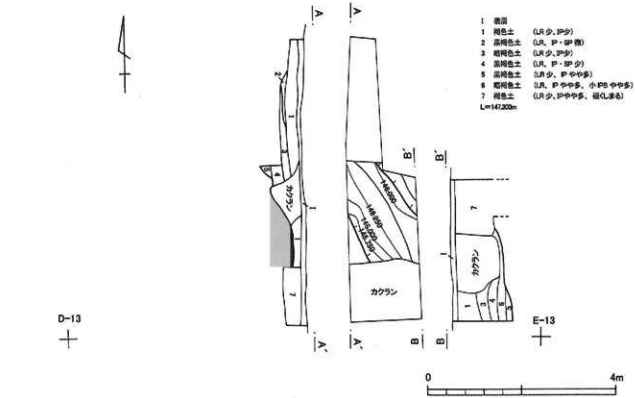


1 表土
1 褐色土 (LR ややも、IP ややも、SP 少)
2 暗褐色土 (LR 少、IP 微)
3 褐色土 (LR、IP ややも、SP 微)
4 黄褐色土 (LR 多、小 LB 微、IP少、SP 少)
5 暗色土 (IP 主体)
6 暗褐色土 (LR ややも、IP ややも)
7 黄褐色土 (LR 多、小 LB ややも、IP- SP 少)
8 黒褐色土 (LR、IP少)
9 暗褐色土 (LR ややも、LB 少、IP- SP 少)
10 暗黄褐色土 (LR 多、IP少)
11 暗黄褐色土 (LR 多、IP少、SP 微)
12 暗褐色土 (LR 少、IP ややも、SP 微)
13 暗褐色土 (LR、IP少、IPB 微)
14 暗褐色土 (IPB 多)
15 暗褐色土 (LR 少、IP 微)
16 暗褐色土 (LR 少)
17 暗黄褐色土 (LR ややも)
18 黒褐色土 (LR ややも、小 LB ややも、IP ややも)
19 黄褐色土 (LR 多、小 LB ややも)
20 黒褐色土 (LR 少、IP ややも)
21 黒褐色土 (LR ややも、IP 少)
22 黒褐色土 (LR 少、IP 少、SP 微)
L=146.000m

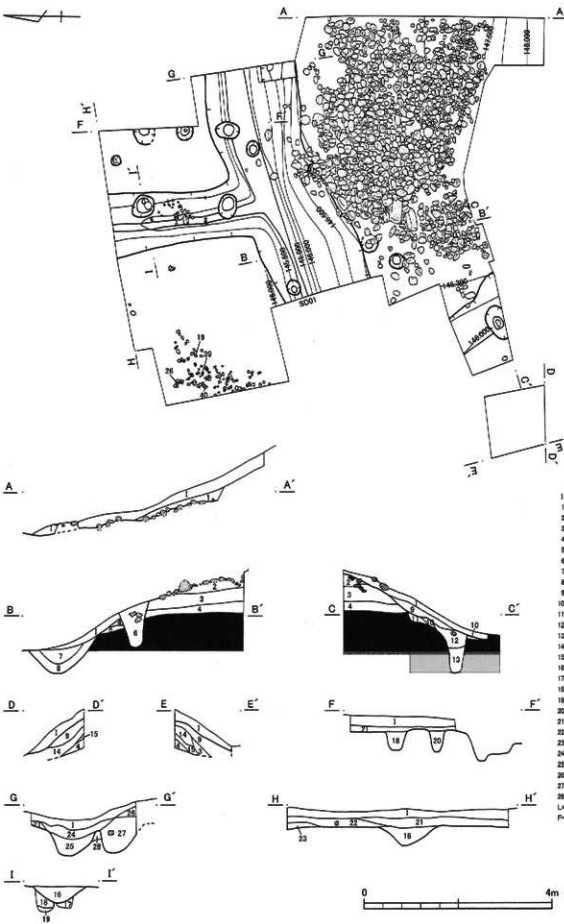
第17図　T－5平・断面図



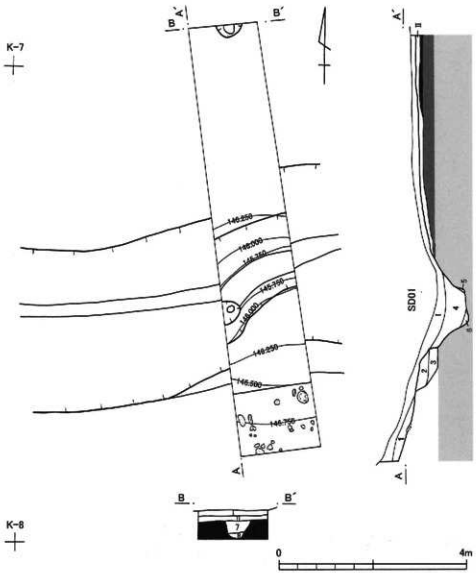
第18図　T－6平・断面図



第19図　T－7平・断面図

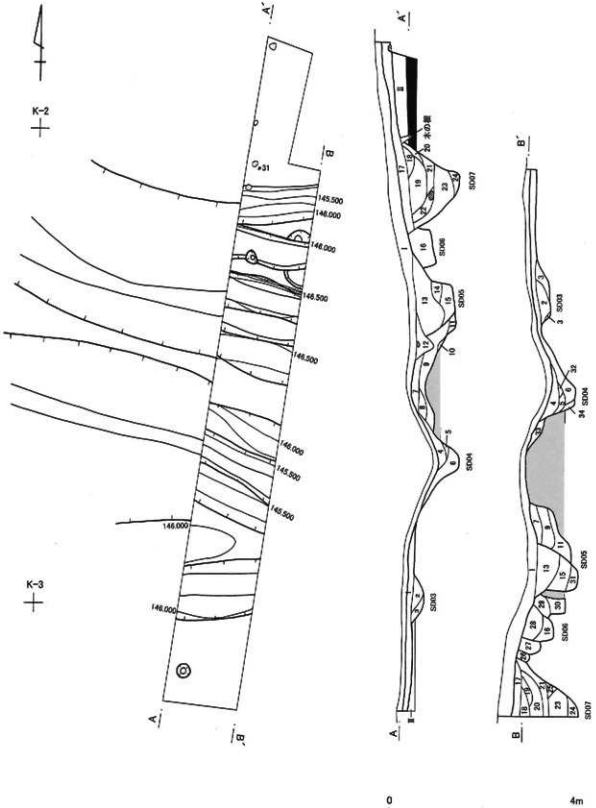


第20図　T-10平・断面図



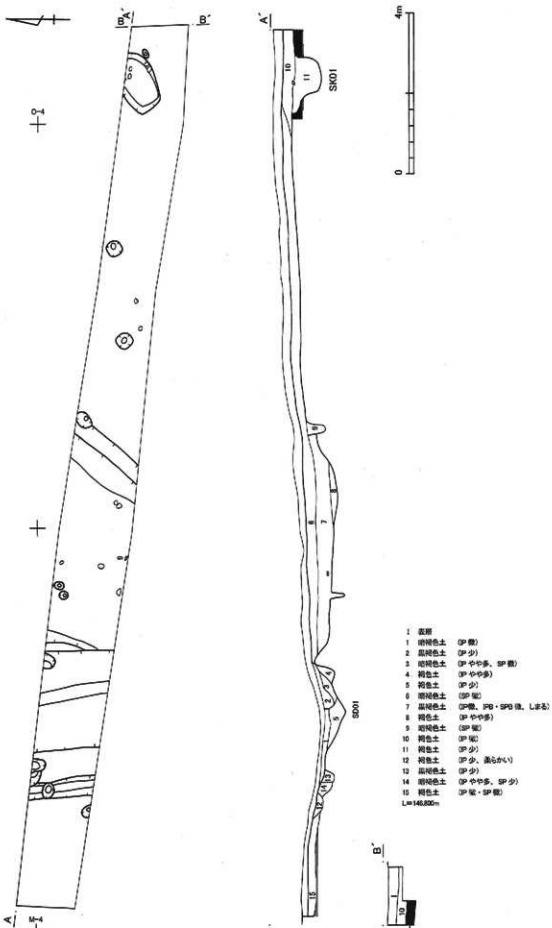
Ⅰ　表土
Ⅱ　暗褐色土層
1　暗褐色土　(LP 微)
2　暗褐色土　(P 多)
3　暗褐色土　(P やや多)
4　褐色土　(P 微、黒らかい)
5　暗黄褐色土　(SP 多)
6　黒褐色土　(P 少)
7　黒褐色土　(P 微、SP 微、黒らかい)
8　黒色土　(PB 少、SPB 少、硬くしまる)
L=146.800m

第21図　T-11平・断面図

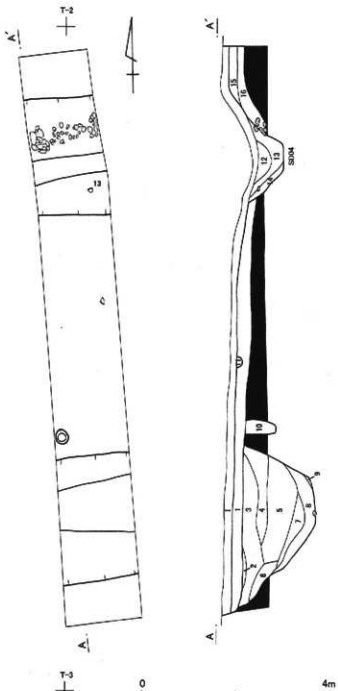


Ⅰ 表層
Ⅱ 暗褐色土層
1 黄褐色土 (LR 多、IP・SP 少)
2 暗褐色土 (SP 微)
3 暗黄褐色土 (LR 多、IP 微)
4 暗褐色土 (SP 微)
5 褐褐色土 (IP 微、SP 微)
6 褐色土 (LR 少、IP 微)
7 褐褐色土 (IPB 多)
8 暗黄褐色土 (LR やや多、IP やや多)
9 暗褐色土 (IP 微)
10 褐色土 (IP 微、SP 微)
11 黒褐色土 (IP 微、IBい)
12 暗黄褐色土 (LR 少、IP 微、SP 微)
13 黒褐色土 (LR 少、IP 微)
14 暗黄褐色土 (IPB 多、SPB 少)
15 暗褐色土 (IP やや多)
16 黒色土 (IP 少、IPB 少)
17 暗褐色土 (IPB 微)
18 黒褐色土 (IP 微)
19 暗褐色土 (LR 少、IP やや多)
20 暗褐色土 (IP 少)
21 黒褐色土 (IP 微)
22 暗褐色土 (IP 微)
23 黒褐色土 (IP 微)
24 黒褐色土 (IP 多)
25 褐色土 (IP 少)
26 暗褐色土 (IP 微)
27 黒褐色土 (IP 少)
28 黒褐色土 (IP 微)
29 黒褐色土 (LR 少、IP 少)
30 黄褐色土 (LR 多、IP 少)
31 暗黄褐色土 (LR 多、IP 少)
32 褐褐色土 (IP 微)
33 黄褐色土 (LR 多)
34 褐色土 (IP 少)
35 黒褐色土 (LR 微)
L=146.300m

第22図　T-12平・断面図

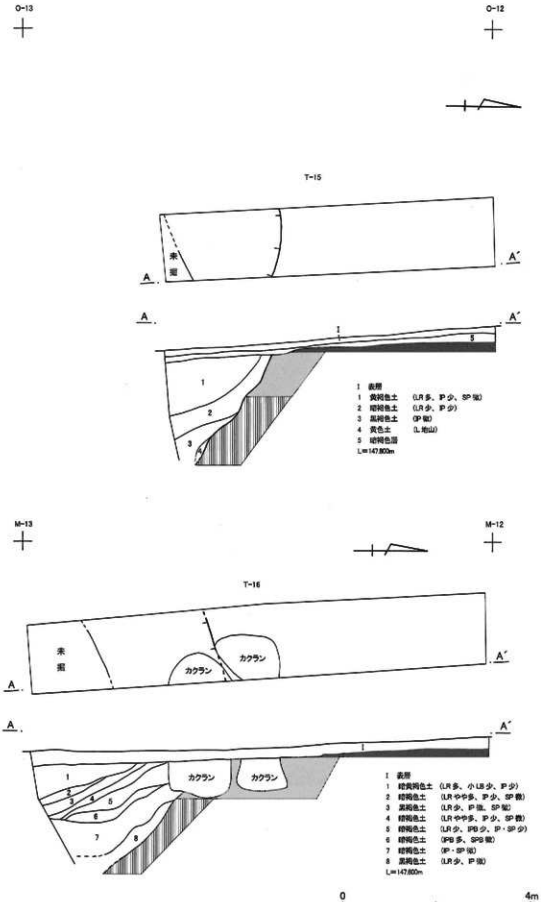


第23図　T-13平・断面図

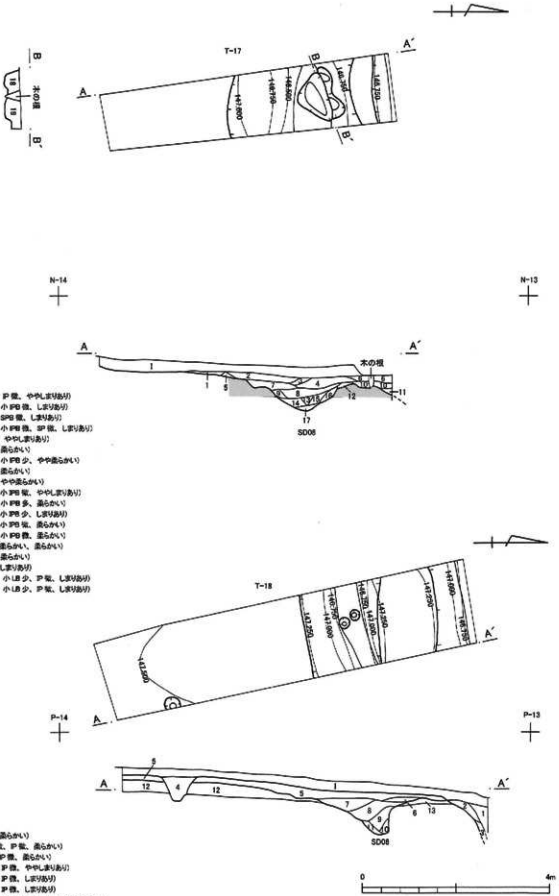


1　表土
1　暗褐色土　(SP・SP 微)
2　褐色土　(LR 少)
3　暗褐色土　(P 微)
4　黒褐色土　(SP・SP 微)
5　褐褐色土　(小 LB、小 PB、やや多、SPB 少)
6　黒褐色土　(SP 微)
7　暗褐色土　(小 PB 少、SP 少)
8　黒褐色土　(SP・SP 微)
9　暗褐褐色土　(SP やや多)
10　黒褐色土　(SP 微)
11　黒色土
12　褐色土　(炭もかい)
13　暗褐色土　(ややしまる)
14　黒褐色土　(しまる)
15　暗褐色土　(P 微)
16　褐色土　(SP 微)
L=145.800m

第24図　T-14平・断面図



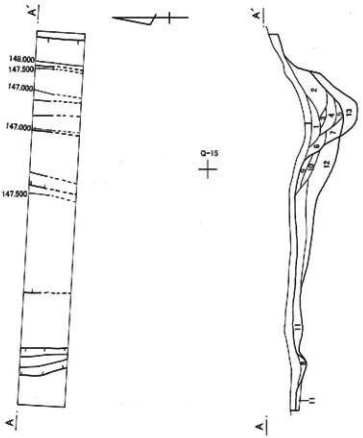
第25図　T-15・16平・断面図



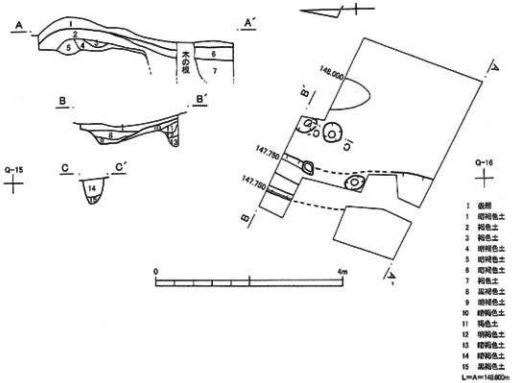
1 表層
1 茶褐色土 (LR微、P微、ややしまりあり)
2 暗褐色土 (P少、小PB微、しまりあり)
3 暗褐色土 (P弱、SPB微、しまりあり)
4 暗褐色土 (P弱、小PB微、SP微、しまりあり)
5 暗黄褐色層 (SP多、ややしまりあり)
6 茶褐色土 (P弱、固らかい)
7 茶褐色土 (P少、小PB少、やや固らかい)
8 暗褐色土 (P弱、固らかい)
9 暗褐色土 (P弱、やや固らかい)
10 赤褐色土 (P微、小PB微、ややしまりあり)
11 褐色土 (P多、小PB多、固らかい)
12 暗褐色土 (P微、小PB少、しまりあり)
13 暗褐色土 (P微、小PB微、固らかい)
14 褐色土 (P多、小PB微、固らかい)
15 褐色土 (P やや固らかい、固らかい)
16 褐色土 (P多、固らかい)
17 赤褐色土 (P多、しまりあり)
18 暗黄褐色土 (LR少、小LB少、P微、しまりあり)
19 明黄褐色土 (LR多、小LB少、P微、しまりあり)
L=A=147.60m
L=B=146.700m

1 表層
1 茶褐色土 (P微、固らかい)
2 茶褐色土 (小LB微、P微、固らかい)
3 暗褐色土 (P少、P微、固らかい)
4 暗褐色土 (LR微、P微、ややしまりあり)
5 暗褐色土 (LR微、P微、しまりあり)
6 茶褐色土 (LR微、P微、しまりあり)
7 暗褐色土 (LR微、小LB微、P微、ややしまりあり)
8 褐色土 (LR微、P微、固らかい)
9 暗褐色土 (LR微、小LB微、P微、固らかい)
10 褐色土 (LR少、P少、固らかい)
11 暗褐色土 (LR微、P微、ややしまりあり)
12 茶褐色土 (LR微、P微、しまりあり)
13 茶褐色土 (LR微、ややしまりあり)
L=147.60m

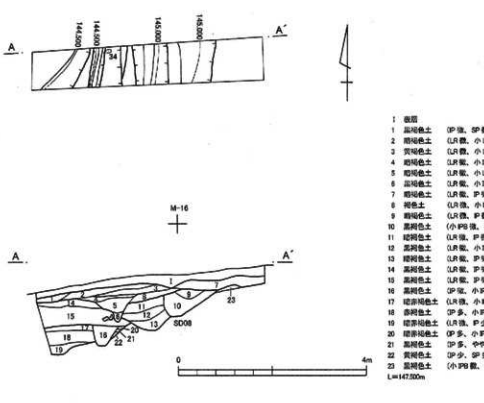
第26図　T-17・18平・断面図



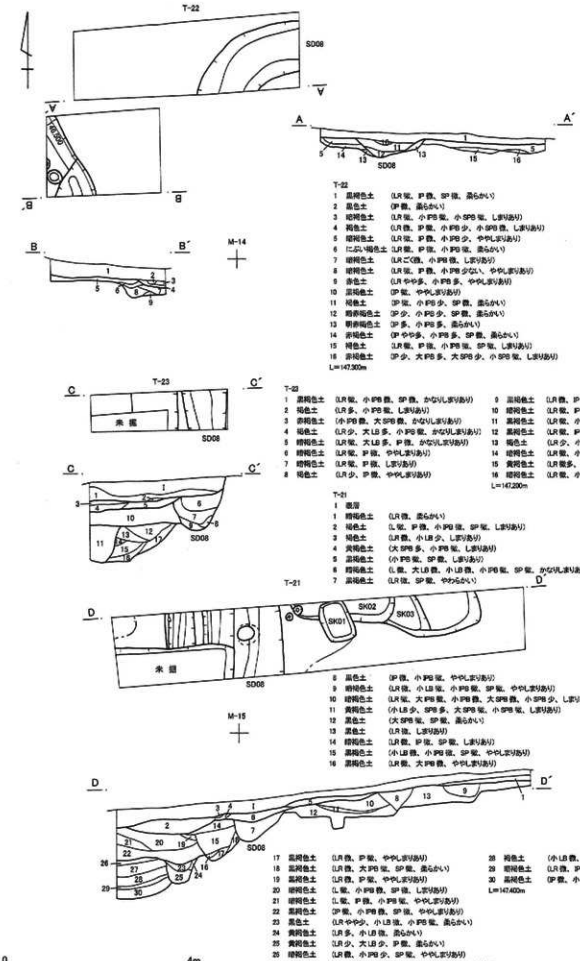
第27図　T-19平・断面図



第28図　T-20平・断面図



第29図　T-24平・断面図



T-22

1 黒褐色土　(LR 微、P 微、SP 微、高らかい)
2 黒色土　(P 微、高らかい)
3 暗褐色土　(LR 微、小 PB 微、小 SPB 微、しまりあり)
4 褐色土　(LR 微、P 微、小 PB 少、小 SPB 微、しまりあり)
5 暗褐色土　(LR 微、P 微、小 PB 少、ややしまりあり)
6 にぶい褐色土 (LR 微、P 微、小 PB 微、高らかい)
7 暗褐色土　(LR ごく微、小 PB 微、しまりあり)
8 暗褐色土　(LR 微、P 微、小 PB 少ない、ややしまりあり)
9 赤色土　(LR やや多、小 PB 多、ややしまりあり)
10 黒褐色土　(P 微、ややしまりあり)
11 褐色土　(P 微、小 PB 少、SP 微、高らかい)
12 暗赤褐色土 (P 少、小 PB 少、SP 微、高らかい)
13 明赤褐色土 (P 多、小 PB 多、高らかい)
14 赤褐色土　(P やや多、小 PB 多、SP 微、高らかい)
15 褐色土　(LR 微、P 微、小 PB 微、SP 微、しまりあり)
16 赤褐色土　(P 少、大 PB 多、大 SPB 少、小 SPB 微、しまりあり)
L=147.300m

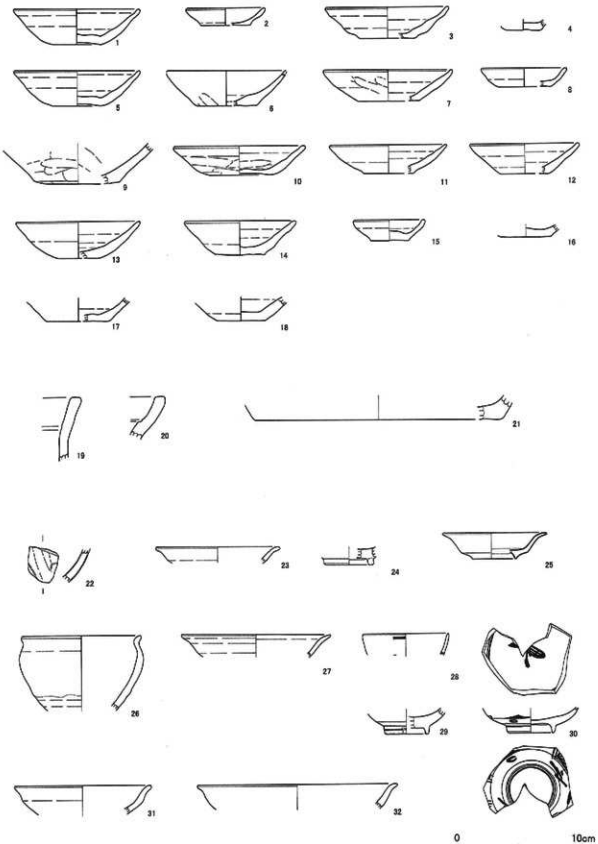
T-23

1 黒褐色土　(LR 微、小 PB 微、SP 微、かなりしまりあり)
2 褐色土　(LR 多、小 PB 微、しまりあり)
3 赤褐色土　(小 PB 微、大 SPB 微、かなりしまりあり)
4 褐色土　(LR 少、大 LB 多、小 PB 微、かなりしまりあり)
5 暗褐色土　(LR 微、大 LB 多、P 微、かなりしまりあり)
6 暗褐色土　(LR 微、P 微、ややしまりあり)
7 暗褐色土　(LR 微、P 微、しまりあり)
8 褐色土　(LR 少、P 微、ややしまりあり)
9 黒褐色土　(LR 微、P 微、しまりあり)
10 暗褐色土　(LR 微、P 微、SP 微、しまりあり)
11 黒褐色土　(LR 微、小 PB 微、高らかい)
12 黒褐色土　(LR 微、P 微、高らかい)
13 褐色土　(LR 少、小 PB 少、しまりあり)
14 暗褐色土　(LR 微、小 PB 微、しまりあり)
15 黒褐色土　(LR 微多、P 多、PB 少、しまりあり)
16 暗褐色土　(LR 微、小 PB 微、しまりあり)
L=147.200m

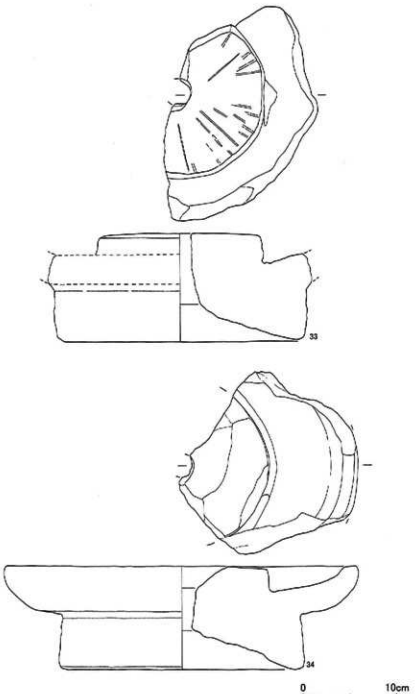
T-21

1 表土
2 暗褐色土　(LR 微、高らかい)
3 褐色土　(L 微、P 微、小 PB 微、SP 微、しまりあり)
4 褐色土　(LR 微、小 LB 少、しまりあり)
5 赤褐色土　(大 SPB 多、小 PB 微、しまりあり)
6 黒褐色土　(小 PB 微、SP 微、しまりあり)
7 暗褐色土　(L 微、大 LB 微、小 LB 微、小 PB 微、SP 微、かなりしまりあり)
8 黒褐色土　(P 微、小 PB 微、ややしまりあり)
9 暗褐色土　(LR 微、小 LB 微、小 PB 微、SP 微、ややしまりあり)
10 暗褐色土　(LR 微、大 PB 微、小 PB 微、大 SPB 微、小 SPB 少、しまりあり)
11 黄褐色土　(小 LB 少、SPB 多、大 SPB 微、小 SPB 微、しまりあり)
12 黒色土　(大 SPB 微、SP 微、高らかい)
13 黒色土　(LR 微、しまりあり)
14 暗褐色土　(LR 微、P 微、SP 微、しまりあり)
15 黒褐色土　(小 LB 微、小 PB 微、SP 微、ややしまりあり)
16 黒褐色土　(LR 微、大 PB 微、ややしまりあり)
17 黒褐色土　(LR 微、P 微、ややしまりあり)
18 黒褐色土　(LR 微、大 PB 微、SP 微、高らかい)
19 黒褐色土　(LR 微、P 微、ややしまりあり)
20 暗褐色土　(L 微、小 PB 微、SP 微、しまりあり)
21 暗褐色土　(L 微、P 微、小 PB 微、ややしまりあり)
22 黒褐色土　(P 微、小 PB 微、SP 微、ややしまりあり)
23 黒色土　(LR やや少、小 LB 微、小 PB 微、高らかい)
24 黄褐色土　(LR 多、小 LB 微、高らかい)
25 黄褐色土　(LR 少、大 LB 少、P 微、高らかい)
26 暗褐色土　(LR 微、小 PB 少、SP 微、ややしまりあり)
27 赤褐色土　(大 LB 微、P 微、小 PB 少、SP 微、ややしまりあり)
28 褐色土　(小 LB 微、小 PB 少、SPB 微、ややしまりあり)
29 暗褐色土　(LR 微、P 多、小 PB 多、しまりあり)
30 黒褐色土　(P 微、小 PB 微、小 SPB 微、しまりあり)
L=147.400m

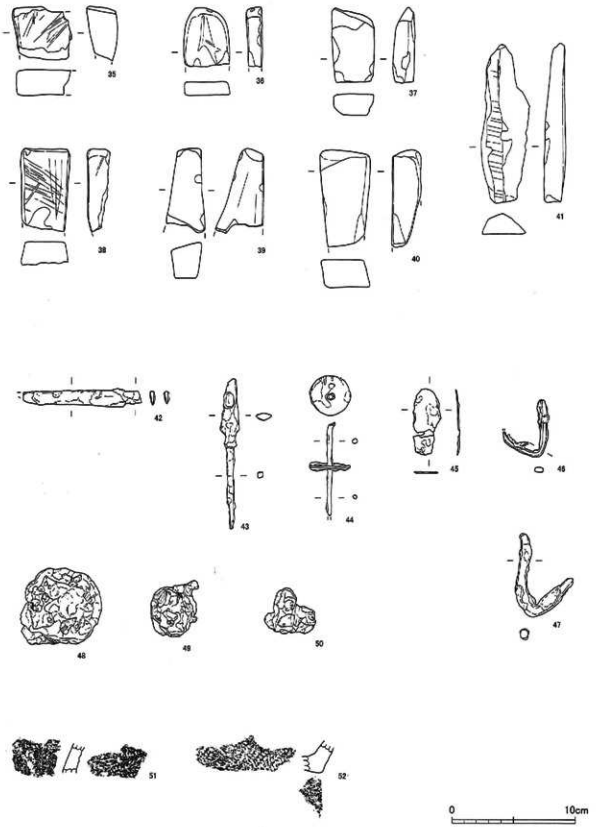
第30図　T-21～23平・断面図



第31図　出土遺物実測図（1）



第32図　出土遺物実測図（2）



第33図　出土遺物実測図（3）

No.	器種	寸法(cm) 口径	底径	底径思き	(g) 重さ	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	かわらけ	(9.8)	2.5			体部は直線的に外傾する。	ロクロ成形。口縁部外面に粗雑の縦ヒダ痕有り。	灰褐色	白色粒、透明粒、赤色スコリア粒	良好	T－1下層	1/8残
2	かわらけ	(8.4)	1.4	(4.0)		平底で、体部は直線的に外反する。	ロクロ成形、足糸カッテ。底部回転糸切り後、板目状圧痕。	褐色	白色粒、透明粒、赤色スコリア粒	良好	T－2下層	1/3残
3	かわらけ	(10.0)	2.5	(4.2)		平底で、体部は直線的に外反する。	ロクロ成形。底部回転糸切り	乳白色	砂粒	良好	T－4	1/4残
4	かわらけ			3.6		平底。	ロクロ成形。底部回転糸切り後、板目状圧痕。	乳白色	白・黒色粒、赤色スコリア粒、透明粒	良好	表採	底部片のみ
5	かわらけ	(10.2)	2.8	4.0		平底で、体部は直線的に外傾する。	ロクロ成形。底部回転糸切り後、ヘラケズリ。	明褐色	白・黒色粒、赤褐粒、赤色スコリア粒	良好	T－3最上層	1/3残
6	かわらけ			(4.0)		平底で、体部は直線的に外傾する。	ロクロ成形。底部回転糸切り後、体部外面にナデ有り。	内面に赤い淡色 外面 橙色	白・黒色粒、透明粒、赤色スコリア粒	良好	T－10 No.2	1/4残
7	かわらけ	(10.4)	2.5	(5.4)		平底で、体部は直線的に外傾する。	ロクロ成形。体部外面にナデあり。底部回転糸切り。	乳白色	白・黒色粒、赤色スコリア粒	良好	T－10 No.7	1/4残
8	かわらけ	(6.9)	1.5	(4.2)		平底で、体部は直線的に外反する。	ロクロ成形。足糸カッテ。底部回転糸切り。	橙褐色	白・黒色粒、透明粒、赤色スコリア粒	良好	T－12 No.1	1/4残
9	土師器（鍋）			(6.6)		平底。	内面ナデ。外面ケズリ後ナデ。底部ケズリ。	橙褐色	白色粒、透明粒	良好	T－13 No.3	体部2/3残存 底部1/3
10	かわらけ	(10.0)	2.3	(5.4)		平底で、体部は直線的に外傾する。	ロクロ成形。底部回転糸切り後、ナデ。	内面に赤い淡色	白・黒色粒、赤色スコリア粒	良好	T－13	1/4残
11	かわらけ	(9.4)	2.2	(4.0)		平底で、体部は内傾する。口縁部は外反気味に立ち上がる。	ロクロ成形。底部板目状圧痕有り。	内面に赤い淡色	砂粒、透明粒、赤色スコリア粒	良好	T－13	1/3残
12	かわらけ	(8.8)	2.4	(4.0)		平底で、体部は直線的に外傾する。	ロクロ成形。底部回転糸切り	内面に赤い黄橙色 外部灰白色	白・黒色粒、赤色スコリア粒	良好	T－13	1/3残
13	かわらけ	(10.0)	3.0	(5.4)		平底で、体部は直線的に外傾する。	ロクロ成形。底部回転糸切り後、板目状圧痕か？	乳白色	白・黒色粒、透明粒、赤色スコリア粒	やや良好	T－14 No.2	1/4残
14	かわらけ	(9.0)	2.7	4.0		平底で、体部は内傾する。口縁部は外反気味に立ち上がる。	ロクロ成形。底部回転糸切り	内面淡色 外面淡黄色	白・黒色粒、透明粒、赤色スコリア粒	良好	T－14 B D－7	1/3残 底部完
15	かわらけ	(8.8)	1.7	3.1		平底で、体部は内傾する。口縁部は外反気味に立ち上がる。	ロクロ成形。底部回転糸切り後、板目状圧痕。	明褐色	白・黒色粒、赤色スコリア粒	良好	T－14 B D－7	1/3残
16	かわらけ			4.0		平底。	ロクロ成形。底部回転 糸切り。	橙色	白・黒色粒、赤色スコリア粒	良好	T－14	1/3残
17	かわらけ			(4.0)		平底。	ロクロ成形。底部回転糸切り後、板目圧痕有り。	乳白色	白・黒色粒、透明粒、金雲母	良好	T－21 上層	体部片1/4残 底部片1/3残
18	かわらけ			(5.0)		平底。	ロクロ成形。足糸カッテ。底部回転糸切り。	浅黄色	砂粒、赤色スコリア粒、金雲母	良好	T－23 中層	体部片1/3残
19	内耳土器					口縁部端は平面。	内面に指圧痕がめぐる。	橙色	白・黒色粒、透明粒、赤色スコリア粒	良好	T－10 No.5	瀬戸 口縁部一部
20	内耳土器					口縁部端は平面。	内面に指圧痕がめぐる。	内面 橙色 外面 灰褐色	白・黒色粒、透明粒、赤色スコリア粒	良好	T－10	瀬戸 口縁部一部
21	内耳土器			(26.0)		平底。	広い赤褐色	白・黒色粒、透明粒	良好	T－24 中層	瀬戸 底部一部
22	鍋（赤褐）						鍋才造分文。	明オリーブ	緻密	良好	T－2	瀬戸
23	陶器 ?（瀬戸）	(10.0)				口縁部が反外する。		灰白色	小や緻密	良好	T－4	瀬戸 口縁部一部
24	陶器			(4.0)			縦ヨ付け再台。	灰白	緻密良好T－4	良好	T－4	1/8残
25	陶器小鉢（志野）	(8.4)	2.1	(3.0)		短い脚台を有し、口縁端は外反する。		赤色	緻密	良好	T－7	1/8残
26	天目茶碗	(9.7)				口縁部が短く逆台をする。		黒 赤褐 灰白色	白・黒色粒、赤色スコリア粒	良好	T－13	1/8残
27	陶器皿 ?（唐津）	(12.0)				口縁部端が反外する。		灰白色	緻密 黒色粒	良好	T－10	瀬戸 口縁部一部
28	瓶（染付）	(3.5)						赤色	緻密	良好	T－10 西側	瀬戸 口縁部一部
29	瓶（染付）			(3.4)		短い高台を付す。		灰白色	緻密	良好	T－10 盛土	1/4残
30	瓶（染付）			3.5				乳白色	緻密	良好	T－10	1/3残

第４表　出土遺物観察表（１）

No.	器 種	寸法(cm)			(g)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	最復元径	重さ							
31	小鉢 (瀬戸ヤ)	(11.0)				口縁部外反みする。		白灰色	白・黒色粒	良好	T－12 No.1	破片 口縁部一部
32	擂鉢底	(16.0)				口縁部が緩く外反する。		白灰色	砂粒、赤色スコリア少	良好	T－14	破片 口縁部一部
33	茶臼		11.5	(25.0)		受け皿用の溝をもつ	目が細かい。				T－10 No.10	凸凹板
34	茶臼		10.9	(25.7)		受け皿用の溝をもつ	目が細かい。				T－24	凸凹板
35	砥石		幅2.1	厚さ2.1				淡黄色	褐灰岩?		T－2上層	一部欠損
36	砥石		幅3.7	厚さ1.1				灰白色	褐灰岩		T－10	
37	砥石		幅3.4	厚さ1.7				灰白色	褐灰岩		T－10	
38	砥石		幅3.9					灰白色	褐灰岩		T－10	
39	砥石		幅3.0	厚2.6				灰黄色	褐灰岩		T－10	
40	砥石		幅1.0	厚2.2				灰オリーブ	粘板岩?		T－10 No.3	
41	砥石			厚1.6				灰色	褐灰岩?		T－11	
42	鉄製品 (犬手)	長 (8.0)	幅1.4	厚3.3	11.8	頭の先及び基部分が一部欠損。			鉄		T－14	
43	鉄製品 (鉄鏃)	長 (12.0)	幅1.5	厚0.9	16.8	錆浮のもの。			鉄		T－14	
44	鉄製品 (紐環部)	長 (7.5)	幅3.3	厚6.4 (銅) 5.1 (鉄)	9.9	匹型状の中央に鉄の心棒を付す。			鉄		T－14 B D－4	
45	鉄製品 (平刃)	長 (4.5)	幅 (0.8)	厚 (0.4)	7.5	刃面が薄い板状のもの。			鉄		T－21 鐵No.1	
46	鉄製品 (平刃)	長5.3	幅2.2	厚0.1	1.7	刃面が薄い板状のもの。			鉄		T－21 鐵No.1	
47	鉄製品 (釘)	長5.7	幅0.8	厚0.8	16.1	断面が四角形。			鉄		T－22 二層	
48	鉄滓				164.1				鉄		T－2 No.2	
49	鉄滓				87.2				鉄		T－10	
50	鉄滓				25.9				鉄		T－10	
51	縄文土器										T－5 遺構土中	破片
52	縄文土器			(2.5)			単節縄文を施す。				T－12	破片
53	内耳土器	(36.6)	10.9	(23.4)		平底。口縁部は平坦で、外端が外側反気味に立ち上がる。	口縁部内面に沈線を配す。	内面暗褐色～黒褐色、外面黒褐色	砂・黒色粒、透明粒、赤色スコリア少	良好	試掘トレンチ	外面に煤付着

第５表　出土遺物観察表（２）

第34図　出土遺物実測図（４）

3 おわりに

（１）確認調査成果について

平成21～平成23年度にわたる３次調査の結果、以下の点が明らかとなった。

まず、主郭（本丸）部分については、台地の北端に位置し、東西約75m、南北約65mで、北と東側が急崖、南と西側が空堀によって守られている。その堀の規模は、堀幅11～15m、深さ６m以上の空堀である。土塁は、現在西側が削平されて無いが、現状で残存している南側の土塁の高さが2.5mであることから西側にも同様の土塁がめぐっていたものと思われる。また、北～東にかけての崖上にも低い土塁がめぐり、堀の外側にも低い土塁がめぐる。

虎口は主郭南側中央部に位置し、Ｔ－１の調査から現状の土橋は後世に造られたもので、当時は木橋が架かっていたものと想定される。虎口内側には区画溝があり、溝内から16世紀代のかわらけが出土している。

Ｔ－12～Ｔ－14の調査で、現状では見られない古い時期の堀（第37図a堀・b堀）が確認され、その出土遺物から15世紀後半の時期と考えられる。これらの堀は、城の最終形態の時期には埋められている。

二ノ郭は主郭をＬ字形に囲み西側と南側に位置する。それを囲む二ノ堀は、堀幅約８～10m、深さ1.5～５mの空堀で、東側に向かって徐々に深くなる。現状では西側と北側崖際に一部堀と土塁が残っている。堀内からは16世紀代のかわらけが出土している。

この郭への虎口は、二ノ堀の西寄り部分のＴ－６で、堀の途切れる状況が確認されたことから、この部分に土橋があったと考えられる。

第Ⅲ次調査では、三ノ郭の東側を確認した。東側崖際に土塁があり、その内側に浅い溝をもつ。なお、土塁の下から古い時期の堀が確認され、２～３時期の造り替えが行われたと考えられる。

この郭の虎口は南東隅で土塁が切れていることから、東崖沿いのルートでの出入りが想定される。

また、現状では確認できない古い時期の堀がＴ－22～Ｔ－24で確認され、３～４回の掘り直しがあったことがわかった。なお、この堀は城の最終形態の時期には埋められている。

北崖下から東崖下にかけても堀と土塁が確認できた。調査は北崖下のＴ－３で行っただけであるが、堀幅が５～７mで、水堀であった可能性が指摘できる。

以上、今までの調査で15世紀後半～16世紀にかけて城が使用されていること、少なくとも３～４回の城の改修が行われていることが明らかになった。また、聞き取り調査や今回の調査から、この城は五重の堀で囲まれていたと考えられる。

（２）発掘調査から見た岡本城

岡本城の築城については、南北朝期に岡本富高が築いたとする説と、寛正３年（1462）玉生信濃守綱重が築いたとする説がある。

岡本富高は、宇都宮景綱の孫で、宇都宮氏の重臣芳賀高名の弟とされる人物で、観応２年(1351)、駿河薩埵山合戦にて討死している。一方の玉生綱重は、系図によると寛正3年に常陸国笠間城へ遷ったと書かれているものもある。現時点での発掘調査からは15世紀段階以降の遺物しか見つかっていないことから、岡本富高築城説には疑問が残る。

次に城の変遷を見てみると、主郭部分及び三ノ郭内の堀で15世紀後半以降に３～４回の堀の掘り直しが行われていることが判明した。「玉生勘造家文書」の系図によると、以下のような玉生氏の動きが見られる。

天文19年（1550）　玉生重季、岡本根小屋城へ移る。

文禄元年（1592）　玉生勝昌、笠間城へ帰る。

文禄４年（1595）　玉生範昌、岡本根小屋城へ帰る。

このような動きと発掘調査から得られた堀の掘り直しとは何らかの関係があると考えられる。なお、玉生重季の岡本城入城への歴史的背景としては、1549年に起こった五月女坂の合戦で宇都宮尚綱が討死し、那須氏が宇都宮に攻めてくる可能性が高まった状況下での動きと捉えることもできる。

また、「那須記」「宇都宮記」には天正４年（1576）多気城の普請に関する記載中に岡本城主岡本美濃守という人物が登場する。一方、ほぼ同時期に、玉生美濃守高宗という人物も登場する。この人物は、天正13年（1585）多気城に宇都宮氏が本城を移した後、宇都宮城代として宇都宮城下を守り、天正18年（1590）の笠間氏滅亡後は笠間城主となる。そして、慶長２年（1597）の宇都宮氏改易に伴い、笠間城から退去している。

もしかすると、玉生氏がいない期間は岡本氏が岡本城に入っていた可能性も考えられる。堀の掘り直しも、このような城主交替による城の改築に伴う可能性もある。

この城の廃城は、慶長2年（1597）の宇都宮国綱の改易とともに廃城になったと考えられ、虎口部分の石積遺構は、城の最終段階のものと考えられる。

（参考文献）

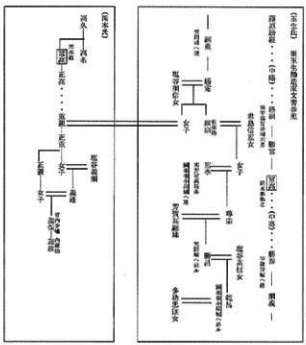
荒川善夫 2002 『戦国期東国の権力構造』 岩田書院

江田郁夫 2002 「元亀期の宇都宮氏－甲相同盟と宇都宮家中－」『栃木県立文書館研究紀要』 第６号　栃木県立文書館

河内町教育委員会 1982 『河内町誌』

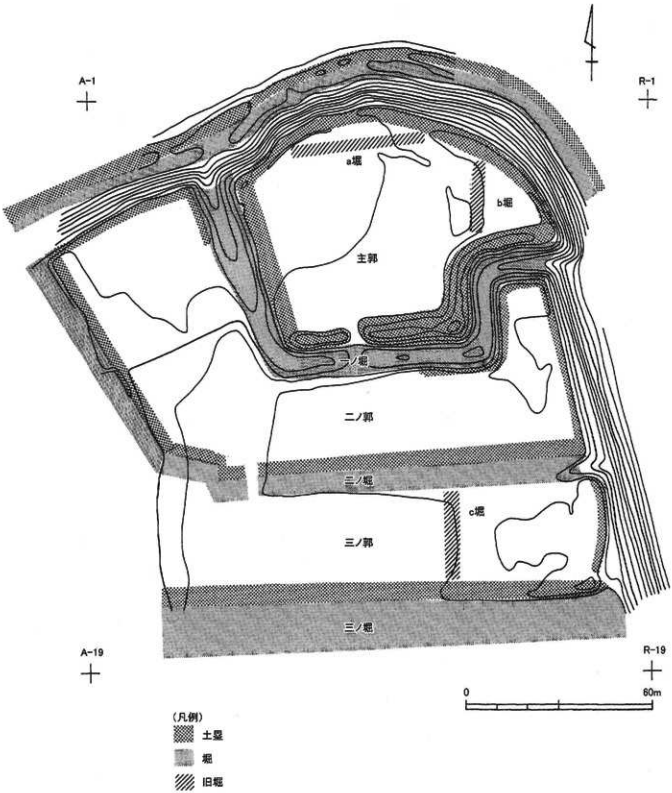
鈴木江津子 2008 「下野国宇都宮氏の旧臣「玉生家文書」を読む」『歴史と民俗』 神奈川大学　日本常民文化研究所論集 24

玉生勝忠 1977 「玉生氏の系図について」『下野の姓氏』 第 12 号　下野姓氏家系研究会



第35図　岡本氏・玉生氏略系図

第36図　岡本城跡周辺の小字図



第37図　岡本城跡調査区部分復元想定図

写　真　図　版

PL1

①竪堀状況（南から）

②Ｔ－１確認状況（東から）

③Ｔ－１断面確認状況（南東から）

④Ｔ－１確認状況（北西から）

⑤Ｔ－２確認状況（東から）

⑥Ｔ－２断面確認状況（南東から）

⑦曲輪ｆ断面確認状況（東から）

⑧曲輪ｆ断面確認状況（南から）

①曲輪ｂ全景（西から）

②曲輪ｂ全景（東から）

③曲輪ｂ平坦部確認状況

④曲輪ｂ断面確認状況（東から）

⑤曲輪ｂ断面確認状況（南東から）

⑥腰曲輪遠景（北から）

⑦調査区全景（南から）

PL3

①T－1調査前（西から）

②T－2調査前（北から）

③T－3調査前（西から）

④T－3堀確認状況

⑤T－2堀確認状況

⑥T－4確認状況

⑦T－5南側堀確認状況

⑧T－5北側堀確認状況

①T－6 堀確認状況

②T－7 堀確認状況

③T－10石積遺構確認状況（北から）

④T－10石積遺構確認状況アップ（北東から）

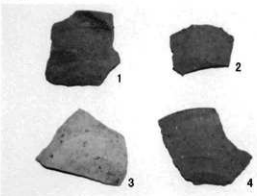
⑤T－10溝確認状況（東から）

⑥T－10溝確認状況（西から）

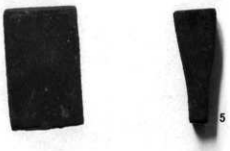
⑦岡本城跡遠景（南上空から）

⑧遠景写真（南から）

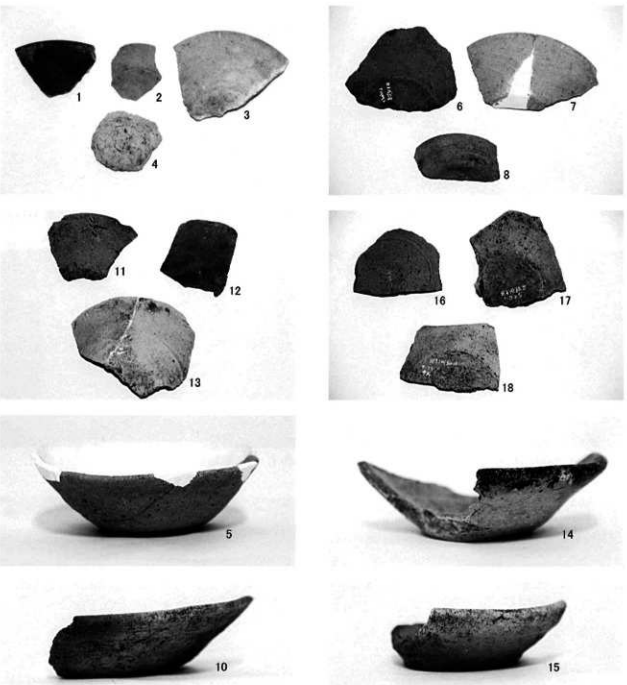
PL5



①多気城跡出土かわらけ

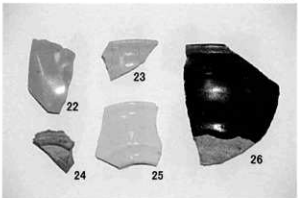


②多気城跡出土砥石



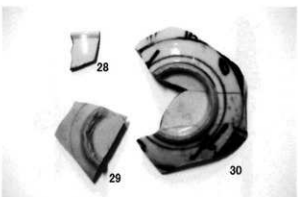
③岡本城跡出土かわらけ

①岡本城跡出土内耳土器



②岡本城跡出土陶磁器(1)

③岡本城跡出土陶磁器(2)

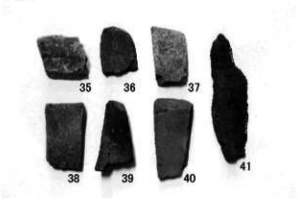


②岡本城跡出土陶磁器(3)

⑤岡本城跡出土茶臼(1)

⑤岡本城跡出土茶臼(2)

PL7



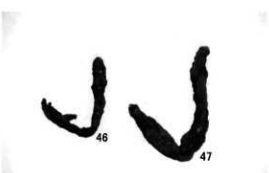
①岡本城跡出土砥石

②岡本城跡出土刀子

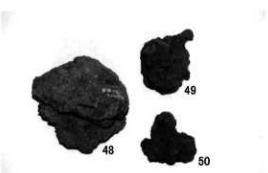
④岡本城跡出土紡錘車

③岡本城跡出土鉄鏃

⑤岡本城跡出土鉄製品(1)



⑥岡本城跡出土鉄製品(2)



⑦岡本城跡出土鉄滓

⑧岡本城跡出土縄文土器

⑨岡本城跡出土内耳土器

報 告 書 抄 録

ふりがな	たげじょうせき・おかもとじょうせき
書名	多気城跡・岡本城跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第７９集
編著者名	近藤真・今平利幸
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭１丁目１番５号　TEL028-632-2764
発行年月日	西暦　2013年（平成25年）３月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たげじょうせき 多気城跡	うつのみやし 宇都宮市 たげまち 田下町	09201		36度 36分 17秒	139度 48分 12秒	20100112 ～ 20100312	5000	遺跡の範囲確認のための調査
おかもとじょうせき 岡本城跡	うつのみやし 宇都宮市 なかおかもとまち 中岡本町	09201		36度 36分 55秒	139度 57分 3秒	20091024 ～ 20110130	500	遺跡の範囲確認のための調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
多気城跡	城跡	中世	堀・土塁	かわらけ、砥石	
岡本城跡	城跡	中世	堀・土塁	かわらけ、砥石、茶臼、陶磁器、鉄製品等	

宇都宮市埋蔵文化財調査報告第79集

多気城跡Ⅱ・岡本城跡

平成25年3月発行

発行 宇都宮市教育委員会文化課
(宇都宮市旭1-1-5)
TEL (028)632-2764

印刷 下野印刷株式会社
(宇都宮市宝木町1-28-11)
TEL (028)622-6953